

発達障害と「身体の動きにくさ」の困難・ニーズ

—— 発達障害の本人調査から ——

高橋智*・井戸綾香**・田部絢子***・石川衣紀****・内藤千尋*****

特別支援科学講座

(2013年9月13日受理)

1. はじめに

近年、発達障害の当事者による手記が数多く出版され、彼らが抱えている身体の問題について徐々に注目され始めている。その中で「身体の動きにくさ」についての記述は数多く、「ボディイメージが弱く、自分の幅がどこまであるか分からない」(岩永・藤家・ニキ:2008)、「手先を動かす作業は圧倒的に遅い」(岩永・藤家・ニキ:2009)など、当事者が自身の身体の動きにおいて困難を抱くことは多い。

これまでの発達障害者の身体の動きに関して、「ふらつきがある」「協調運動に問題がある」など、彼らの姿勢や身体運動の特徴を報告した研究は数多くある(香野:2010)。また、発達障害児への身体の動きを切り口としたアプローチに関する研究も数多く報告されている。その一つに、身体運動の経験を通じて感覚運動の発達を促すために、身体遊びの機会と材料を提供する「ムーブメント教育法」が挙げられる。是枝(2005)はムーブメント教育を適用した体育の授業を紹介し、遊び感覚で取り組める動きの環境設定は身体意識ばかりでなく子どもの意欲を高めると評価している。

発達障害児の脳における感覚間の統合という視点で治療的介入を行う「感覚統合法」もよく知られている。池田ら(2004)は運動面の困難が見られるアスペルガー症候群の子どもに対して感覚統合法を実施した結果、ボールを手で捕ることができるようになるなど、運動企画性の改善が見られたことを報告している。また、岩永(2008)は運動の発達を促すためには能動的感覚処理に焦点を当てることが大事であると強調し、自ら感覚刺激を得るために行動を起こし、それを体験することによって、脳が感覚情報を効果的に処理できるようになると述べている。

身体運動に関する発達障害の本人調査研究として、山下・田部・石川・上好・至田・高橋(2010)、高橋・田部・石川(2012)らの研究がある。山下らは発達障害者本人が抱えるスポーツの困難・ニーズについての調査をし、その結果から発達障害特有の「身体感覚」とスポーツの困難の関連について推察している。

このように発達障害の身体運動の特徴や身体の動きに関する研究は徐々に増えているが、発達障害の本人が抱えている「身体の動きにくさ」に伴う各種の困難・ニーズや求めている支援の検討についてはほとんど未着手である。それゆえに本稿では、発達障害を有する本人・当事者への調査を通して、発達障害の本人・当事者がどのような「身体の動きにくさ」に関する困難・ニーズを有しているのかを明らかにしていく。

* 東京学芸大学特別支援科学講座
** 新潟少年学院
*** 大阪体育大学健康福祉学部
**** 長崎大学教育学部
***** 東京学芸大学専門研究員

2. 方法

(1) 調査対象：発達障害（アスペルガー症候群，高機能自閉症，その他の広汎性発達障害，LD，ADHD，軽度の知的障害）の診断・判定を有するあるいはその疑いのある方で，発達障害についての認識・理解を有する高校生以上の当事者であり，「身体の動きにくさ」に関する困難・ニーズを振り返って調査回答することが可能な方。また，東京学芸大学の学部・大学院に在学して発達障害教育関係の講義を受講している学生にも同様の質問紙調査を行い，結果を比較検討する。

(2) 調査方法：質問紙調査法。刊行されている100冊以上の発達障害本人の手記をほぼ全て入手・検討し，どのような身体の動きにくさがあるのかを把握し，それらをもとに質問紙調査票「『身体の動きにくさ』に関するチェックリスト」全196項目を作成した（文末の調査票を参照）。

(3) 調査期間：2012年11月～2013年1月。発達障害の診断・判定を有する本人133名（男性95名，女性38名，平均年齢24.8歳），東京学芸大学の学部・大学院に在学して発達障害教育関係の講義を受講している学生118名から回答を得た。発達障害の診断・判定を有する本人133名の障害の内訳（複数回答）は，アスペルガー症候群39人，高機能自閉症13人，その他の広汎性発達障害52人，LD16人，ADHD20人，軽度知的障害21人，その他9人である。

3. 結果

3.1 「身体の動きにくさ」に関する困難の調査結果

「『身体の動きにくさ』の困難に関するチェックリスト」の結果を，発達障害を有する本人と「健常」学生との項目別チェック率で比較すると，発達障害本人のチェック率が顕著に高いという結果が出た（図1）。項目別のチェック率において最も高い項目は上肢17.6%，一番低い項目で頸部5.6%という結果になり，発達障害の本人は，個人差があるにしても，身体のどこかで「動きにくさ」に関する困難を抱えているということが明らかになった。同様に「『身体の動きにくさ』の支援ニーズに関するチェックリスト」のチェック率も19.2%という結果になり，多くの発達障害本人が「身体の動きにくさ」に関して支援ニーズを有しているといえる。

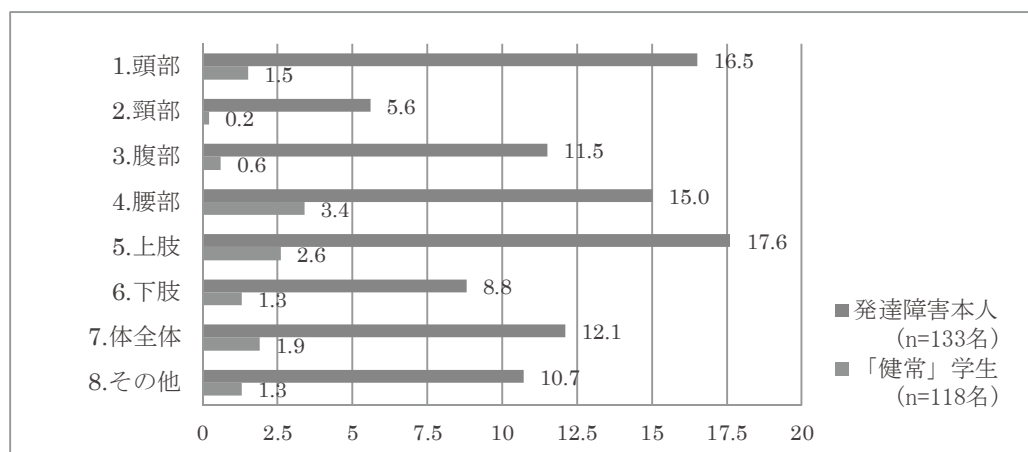
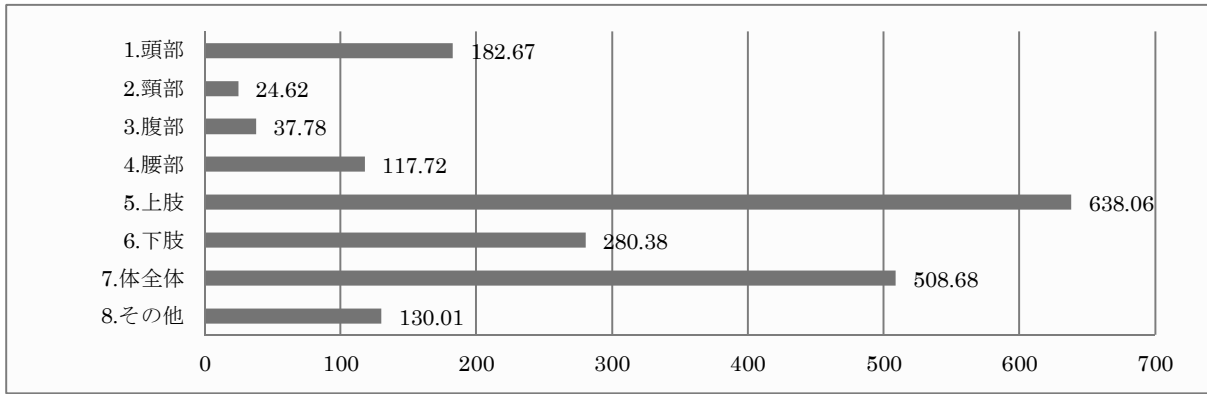


図1 発達障害本人と「健常」学生の項目別チェック率比較 (%)

項目ごとに発達障害を有する本人と「健常」学生で χ^2 検定を行ったところ，全項目に1%水準の有意差が見られた（図2）。 χ^2 値の大きい項目ほど，発達障害本人の有する「身体の動きにくさ」について周囲から理解がないため困難度が高いといえる。 χ^2 値が最も高い項目は上肢638.06と，チェック率と同様の結果になった。次いで体全体（508.68），下肢（280.38），頭部（182.67）の項目が高かった。

図2 項目別X²値比較

また、どの大項目に困難の差があるかについての残差分析を行った(表1)。その結果、すべての大項目において、調整された残差が1%の標準正規偏差値2.58を超えるので、有意に困難を有しているということが言える。

表1 残差分析の結果

大項目	調整された残差
1.頭部	13.52
2.頸部	4.96
3.腹部	6.15
4.腰部	10.85
5.上肢	25.26
6.下肢	16.74
7.体全体	22.55
8.その他	11.4

3. 2 身体の部位ごとの「動きにくさ」に関する困難

3. 2. 1 頭部

頭部の調査項目のうち発達障害本人のチェック率が最も高かったのは「5.口元が緩んでいるのをよく指摘される」26.3%、次いで「9.びっくりしたり、緊張したり、恥ずかしかったりしたときも、固まるだけで感情を表に出すことができない」25.6%であった(図3)。そのほか「6.表情が乏しく、よい表情を作れない」22.6%、「3.眼球が不器用で、数行飛ばし読みをしてしまうことがよくある」22.6%、「8.内面の感情と表情は、意識しなければ一致させることができない」17.3%と続いた。

発達障害本人と「健常」学生のチェック数を χ^2 検定によって分析し、 χ^2 値の高い上位項目をまとめたものが図4である。この項目はいずれも1%水準で有意差がでている項目である。頭部で最も χ^2 値が高かった項目は「3.眼球が不器用で、数行飛ばし読みをしてしまうことがよくある」28.1、次いで「9.びっくりしたり、緊張したり、恥ずかしかったりしたときも、固まるだけで感情を表に出すことができない」27.1、「5.口元が緩んでいるのをよく指摘される」25であった。そのほか「6.表情が乏しく、よい表情を作れない」24.5、「8.内面の感情と表情は、意識しなければ一致させることができない」19.6と続いた。

頭部の調査項目をオッズ比により分析した結果が図5である。この項目はいずれも1%水準で有意差が出ている。「3.眼球が不器用で、数行飛ばし読みをしてしまうことがよくある」のオッズ比が69.84と最も高く、 χ^2 値比較と同様の結果になった。次いで「2.眼球の不器用があり、目がうまく回らない」42.81、「1.目を左右に動かす運動が苦手であり、横書きの本を読むと車酔いのように気持ちが悪くなってしまう」42.81であり、眼

球運動に関する項目が軒並み上位となった。他にも、「8.内面の感情と表情は、意識しなければ一致させることができない」24.46、「4.唇が弱く、まるで麻痺しているようである。唇をどう使ったらいいのかわからない」20.15と続いた。

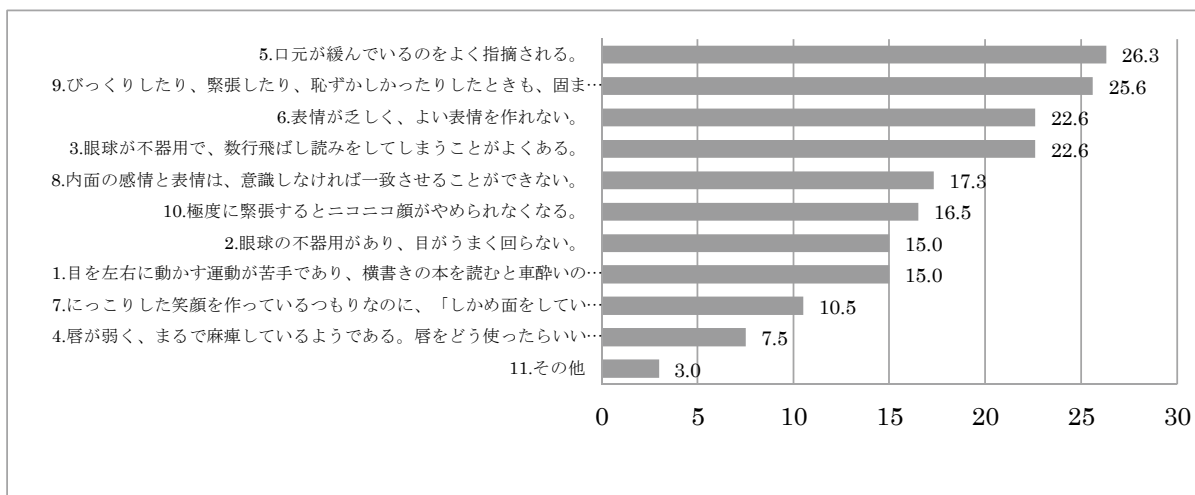


図3 頭部の「動きにくさ」のチェック率の結果 (n=133名)

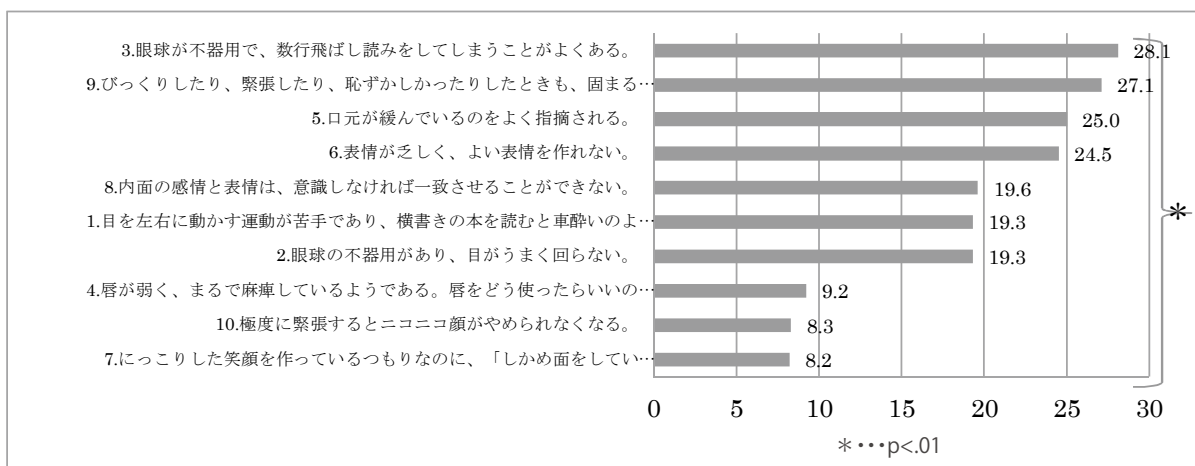


図4 頭部のχ²値比較 (n=133名)

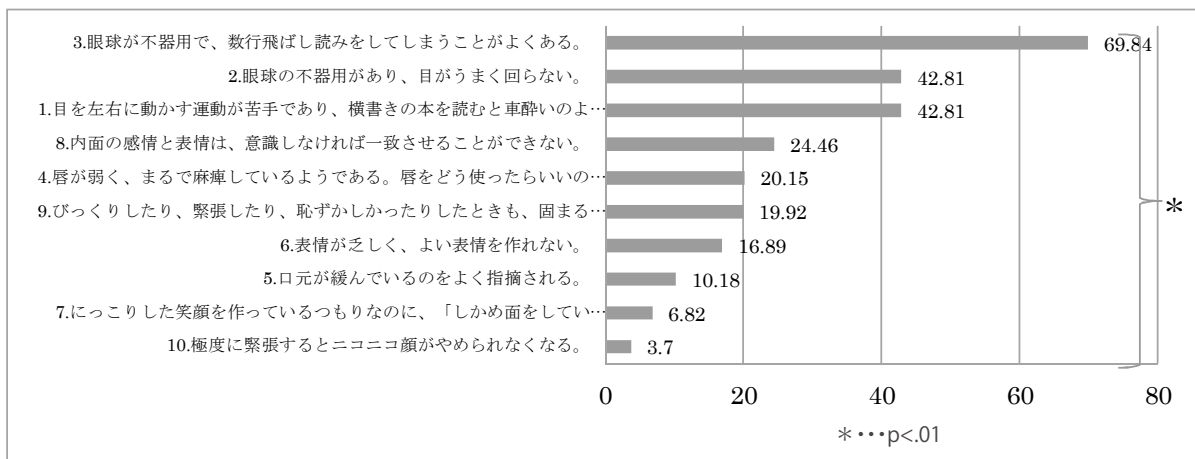


図5 頭部のオッズ比推定 (n=133名)

3. 2. 2 頸部

頸部の調査項目のうち発達障害本人のチェック率が最も高かったのは「13.首が前に傾いているといわれる」12.8%, 次いで「12.首がよくつながっていない感じがする」3.8%となった(図6)。 χ^2 検定結果では「13.首が前に傾いているといわれる」の χ^2 値が13.4と最も高く, 1%水準で有意差が出た。次いで「12.首がよくつながっていない感じがする」4.5となり, こちらは5%水準で有意差が出た(図7)。オッズ比の結果では, 「13.首が前に傾いているといわれる」が17.15と最も高く, 1%水準で有意差が出た(図8)。

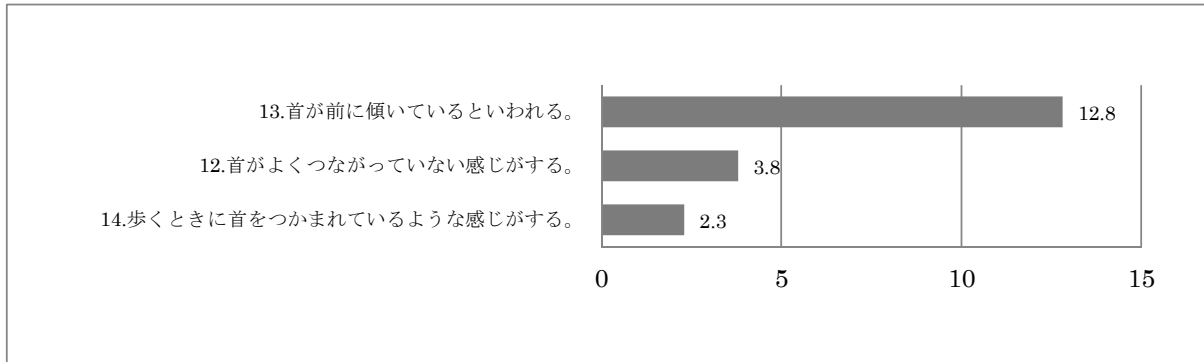


図6 頸部のチェック率の結果(%) n=133名

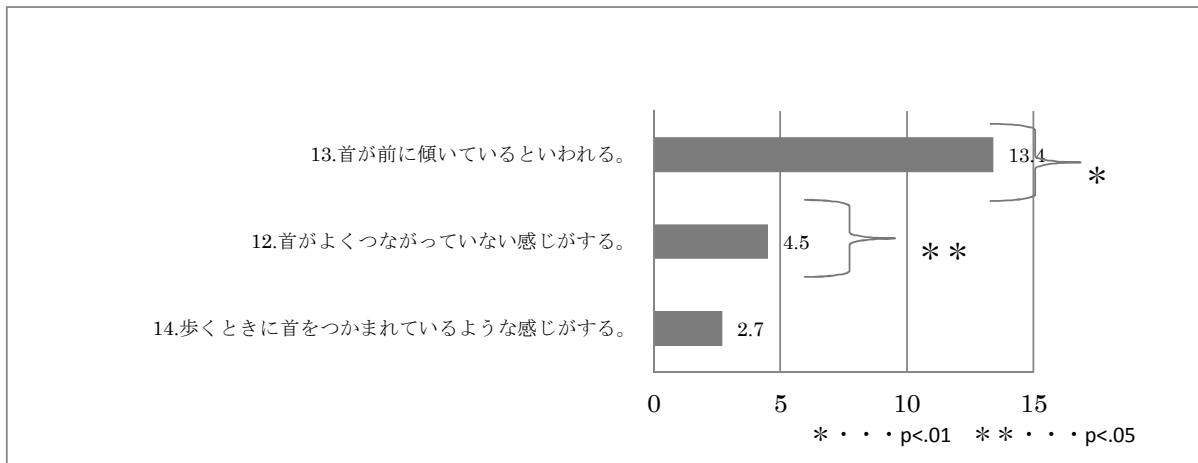


図7 頸部の χ^2 値比較 n=133名

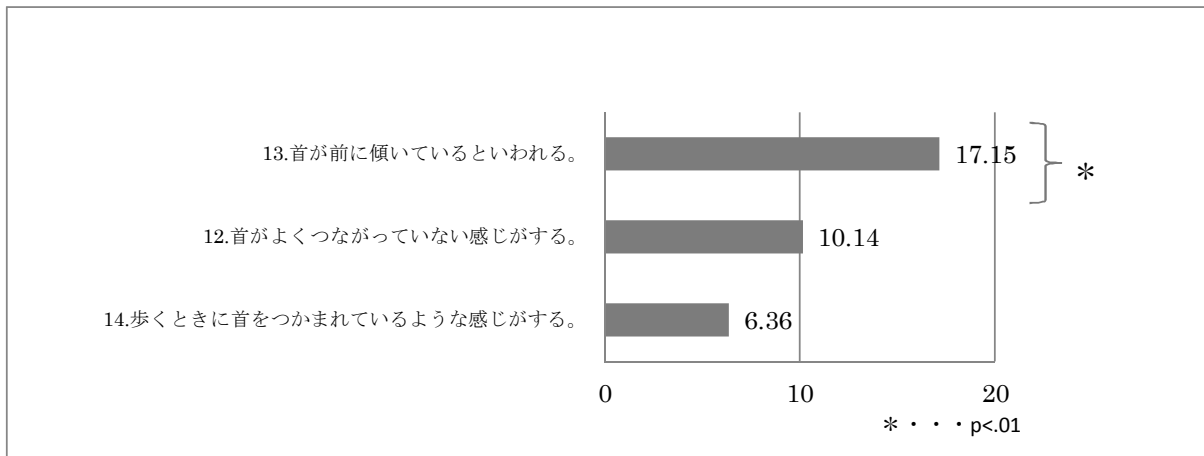


図8 頸部のオッズ比推定 n=133名

3. 2. 3 腹部

腹部の調査項目のうち発達障害本人のチェック率が最も高かったのは「16.腹筋が弱く、腹筋運動ができない」19.5%，次いで「17.体幹の緊張不足で内臓下垂になり、下腹がでている」12.8%となった(図9)。 χ^2 検定結果では「16.腹筋が弱く、腹筋運動ができない」22.8が最も χ^2 値が高かった(図10)。次いで、「17.体幹の緊張不足で内臓下垂になり、下腹がでている」13.4となり、2項目とも1%水準で有意差が出た。オッズ比の結果では「16.腹筋が弱く、腹筋運動ができない」が28.43と χ^2 値比較と同様に最も高く、次いで「17.体幹の緊張不足で内臓下垂になり、下腹がでている」17.15となり、2項目とも1%水準で有意差が出た(図11)。

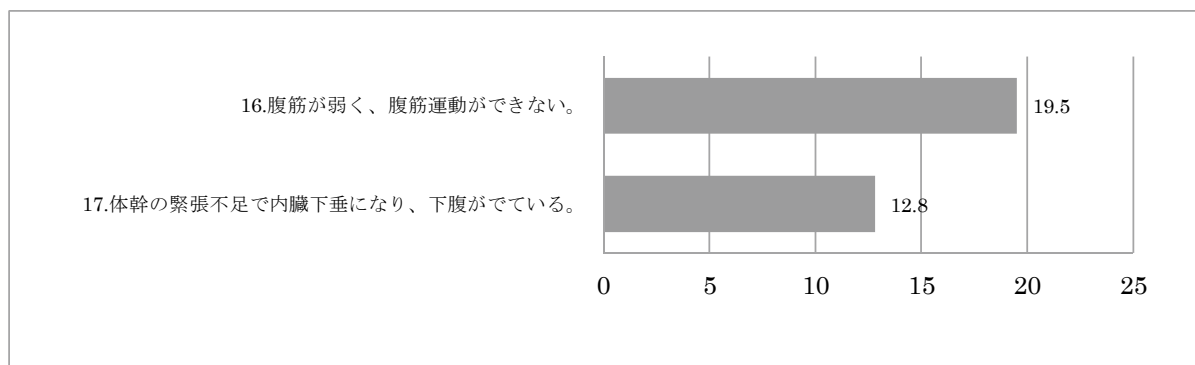


図9 腹部チェック率の結果(%) n=133名

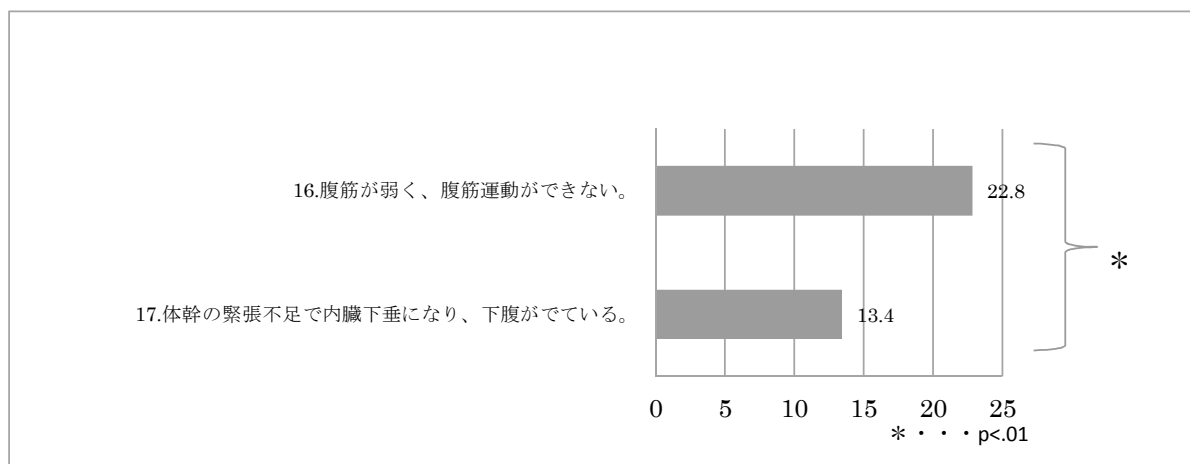


図10 腹部の χ^2 値比較 n=133名

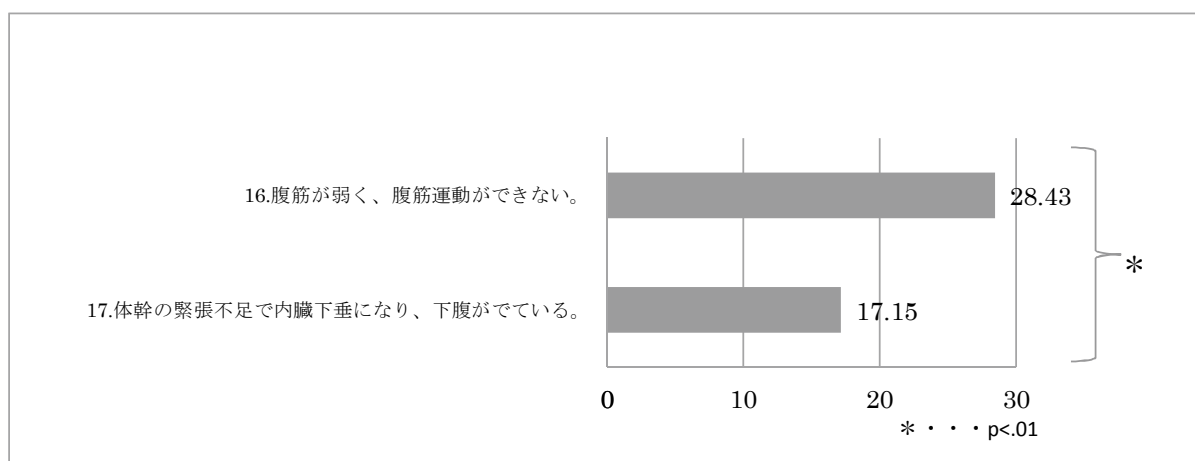


図11 腹部のオッズ比推定 n=133名

3. 2. 4 腰部

腰部の調査項目のうち発達障害本人のチェック率が最も高かったのは「25.何かに熱中すると姿勢に注意が回らなくなり、姿勢がくずれてしまう」37.6%, 次いで「19.ひどい猫背である」27.1%であった(図12)。そのほか、「21.まっすぐに座れず、すぐ椅子にもたれかかってしまう」25.6%, 「24.姿勢を保つために力を入れすぎ、大変な労力を使っている」20.3%, 「23.低緊張であり、座っていても、尻を前にずらす浅掛けになり、自然に上体が傾き、脚が開いてしまう」18.0%と続いた。

χ^2 検定結果では、「21.まっすぐに座れず、すぐ椅子にもたれかかってしまう」27.1が最も高い項目として挙げられ、次いで「25.何かに熱中すると姿勢に注意が回らなくなり、姿勢がくずれてしまう」25.3, 「24.姿勢を保つために力を入れすぎ、大変な労力を使っている」21.2, 「22.体を支えて姿勢をたもつ筋力がない」11.7となり、「姿勢」に関する調査項目の χ^2 値が軒並み高いという結果になった(図13)。

オッズ比では、「21.まっすぐに座れず、すぐ椅子にもたれかかってしまう」が19.92と最も高く、次いで「24.姿勢を保つために力を入れすぎ、大変な労力を使っている」14.77, 「22.体を支えて姿勢をたもつ筋力がない」6.79, 「25.何かに熱中すると姿勢に注意が回らなくなり、姿勢がくずれてしまう」5.32となった(図14)。 χ^2 値比較と同様に、「姿勢」に関する調査項目のオッズ比が高くなった。

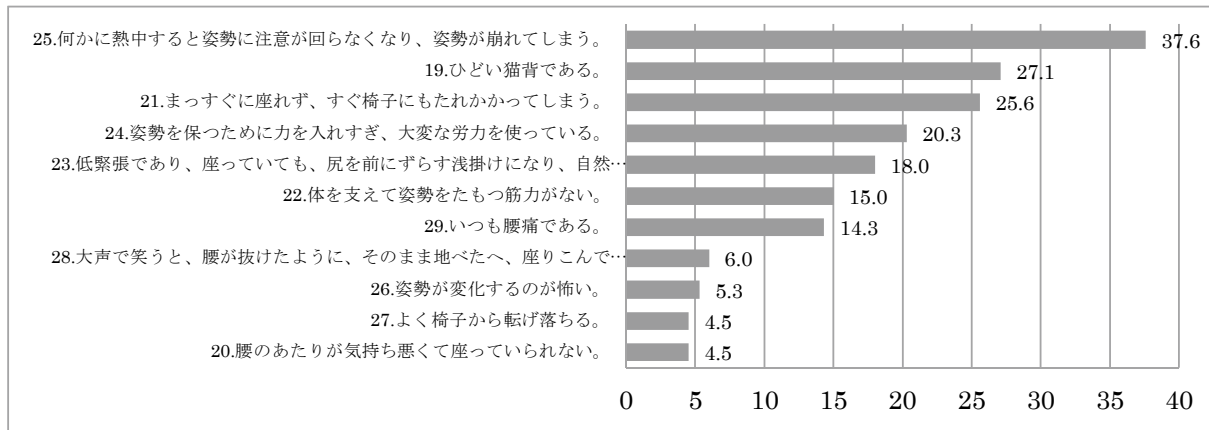


図12 腰部チェック率の結果(%) n=133名

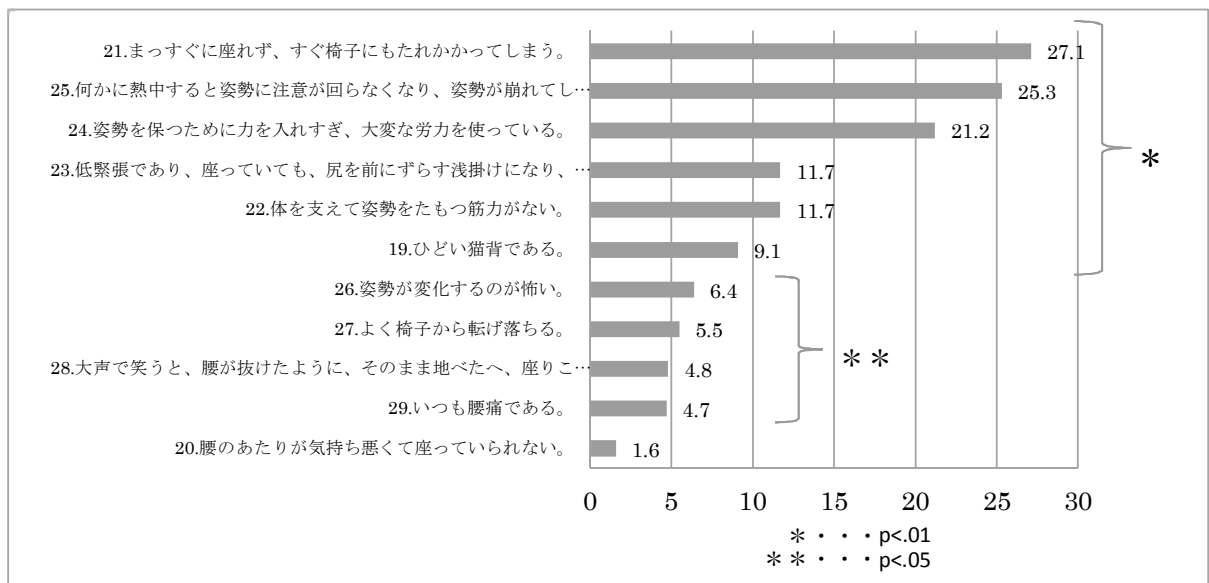


図13 腰部の χ^2 値比較 n=133名

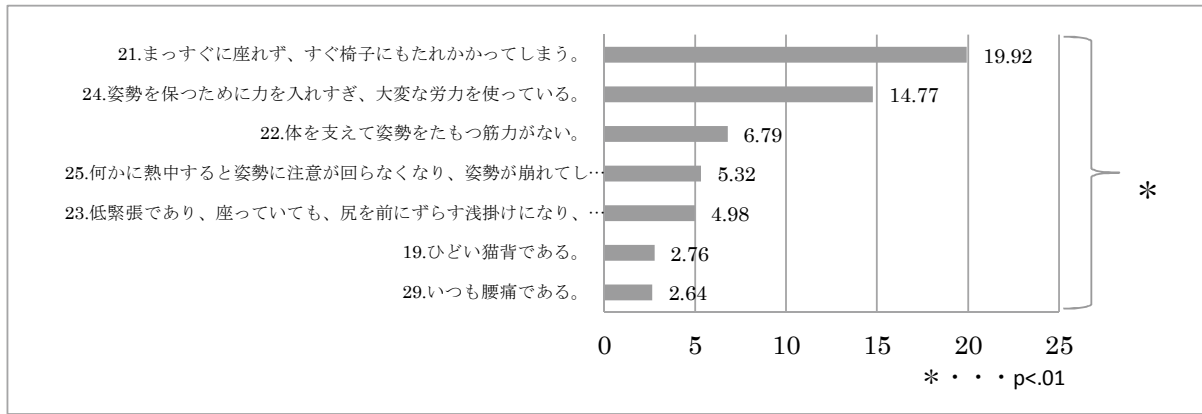


図14 腰部のオッズ比推定 n=133名

3. 2. 5 上肢

「上肢」の調査項目のうち発達障害本人のチェック率が最も高かったのは「31.精密さや細かさを要求される作業が苦手である」45.1%であった(図15)。この項目は調査票の全196項目のうち、最も高いチェック率となった。次いで「33.作業速度が遅く、図工や家庭科では期限までに作品を仕上げるのが一苦労だった」42.9%「55.鉛筆やお箸の持ち方がおかしいと指摘される」33.8%、「44.字が斜め上がりになってしまって、横まっすぐに書くことが難しい」31.6%となり、手指の巧緻性に関する調査項目のチェック率が高くなった。

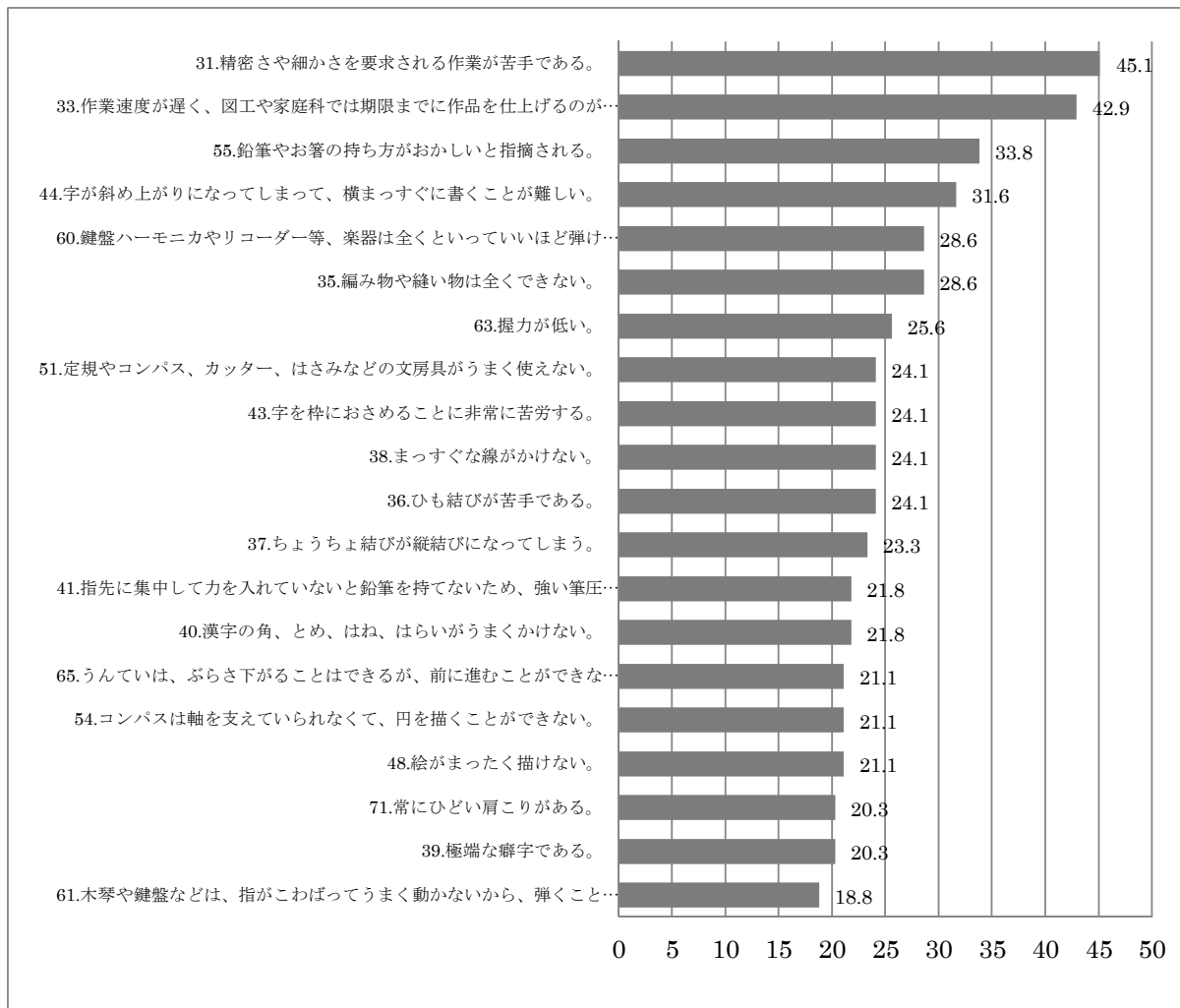


図15 上肢のチェック率の結果 (%) n=133名

χ^2 検定結果では「33.作業速度が遅く、図工や家庭科では期限までに作品を仕上げるのが一苦労だった」40.5が最も χ^2 値が高い項目として挙がり、次いで「31.精密さや細かさを要求される作業が苦手である」39.9、「60.鍵盤ハーモニカやリコーダー等、楽器は全くといっていいほど弾けない」31.7、「43.字を枠におさめることに非常に苦勞する」30.4となり、チェック率と同様に、手指の巧緻性に関する調査項目が軒並み上位となった(図16)。

オッズ比では「43.字を枠におさめることに非常に苦勞する」75.89が最もオッズ比が高く、続いて「45.体に力が入って疲れるので、字を書くのは苦手で、漢字はできれば書きたくない」53.03、「56.ひも結びが苦手である」37.07、「68.どうやってボールを投げればいいのか分からない」33.28、「64.腕の筋力が弱く、重い荷物が持てない」33.28となった(図17)。

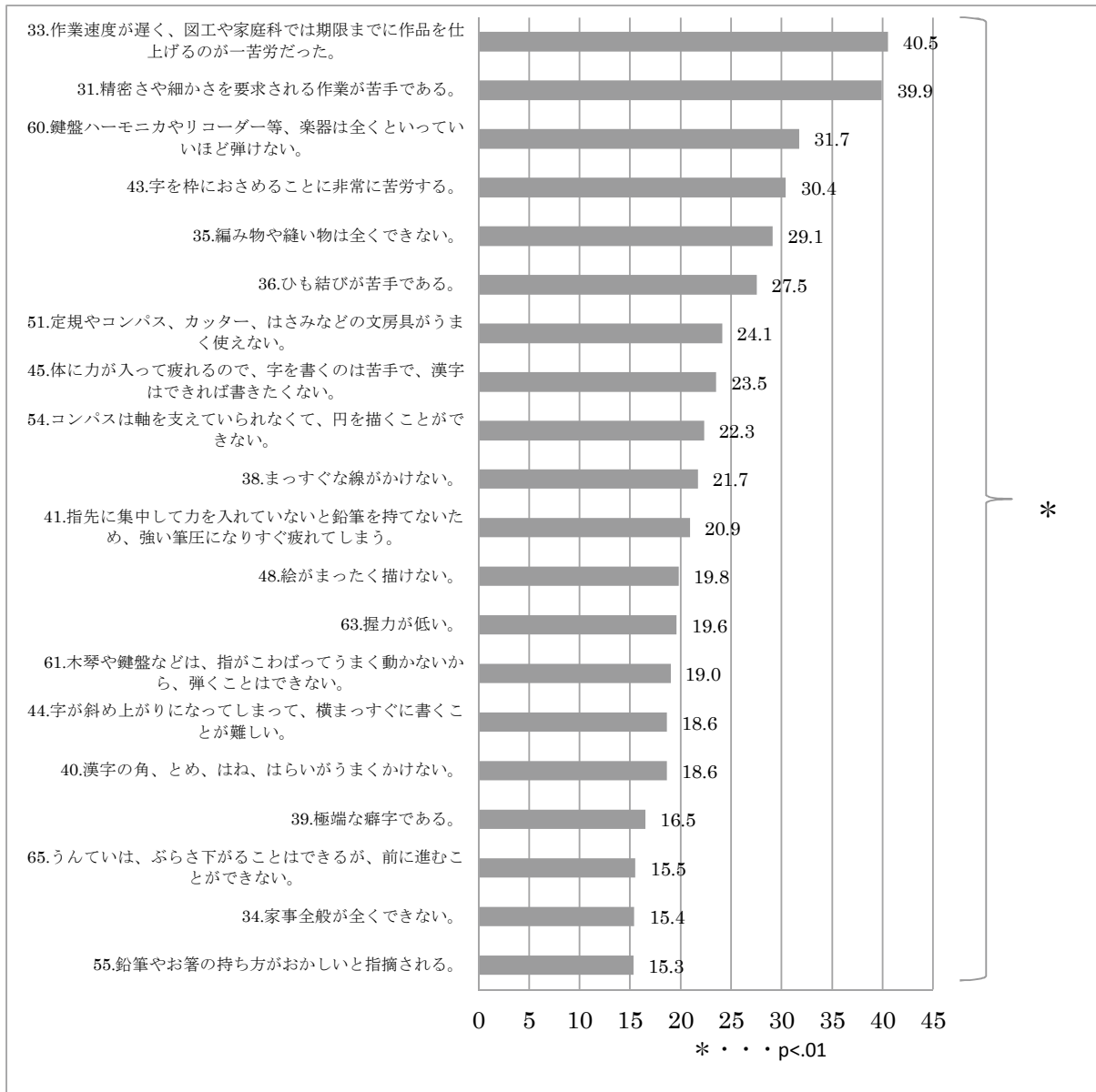


図16 上肢の χ^2 値比較 n=133名

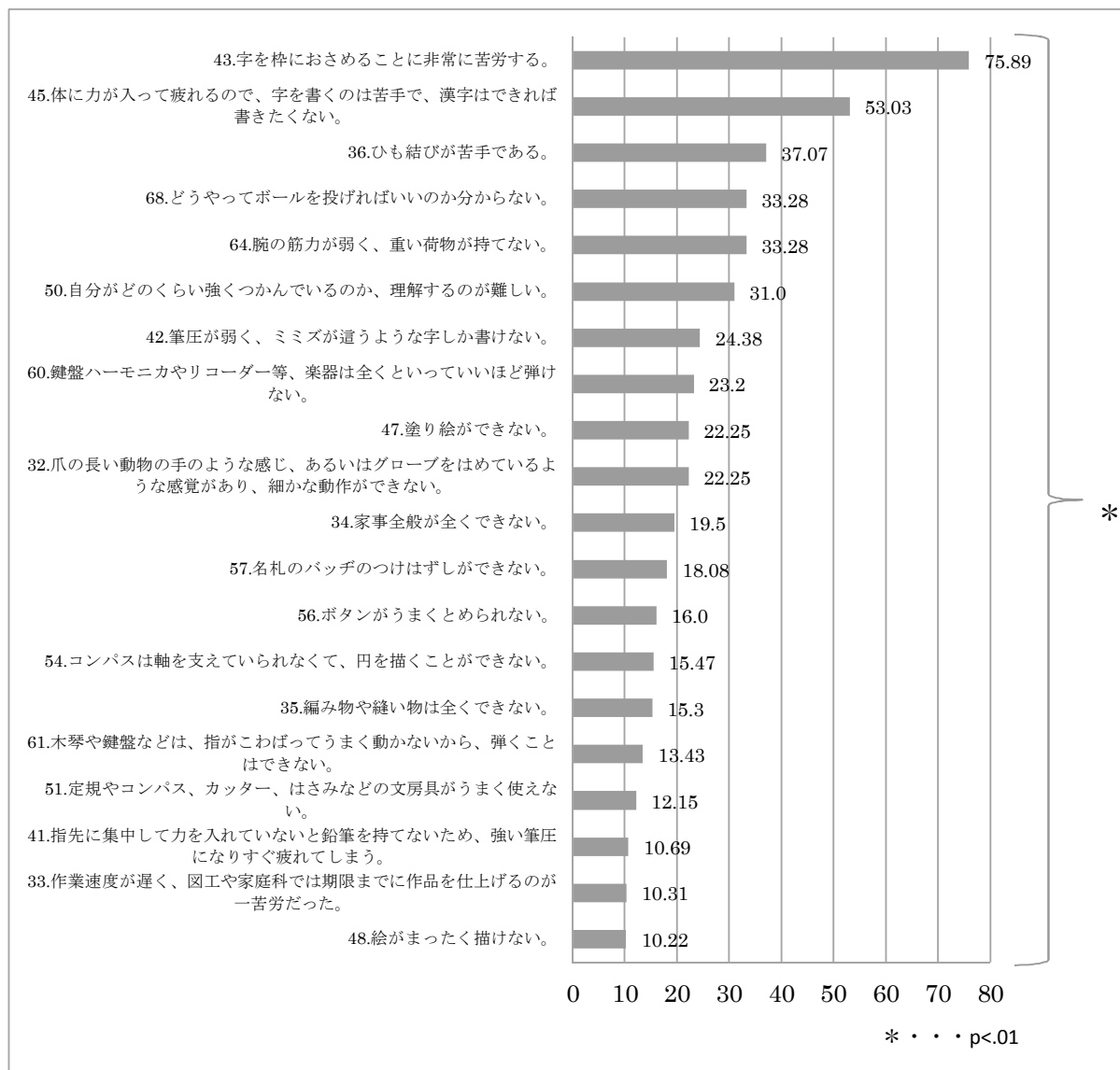


図17 上肢のオッズ比推定 n=133名

3. 2. 6 下肢

下肢の項目で発達障害本人のチェック率が高かった項目は「110.足首や股関節がとても固い」21.1%であった。次いで「101.目をつぶっての片足立ちができない」19.5%、「88.道の何も無いところでつまずいて転んでしまう」19.5%であった(図18)。他にも、「81.歩くスピードがとても遅い」15.8%、「105.スキップができない」13.5%、「85.体をまっすぐにして歩くことができない」13.5%となっている。

χ^2 検定結果では、「101.目をつぶっての片足立ちができない」25.7が最も χ^2 値の高い項目として挙げられた(図19)。次いで「105.スキップができない」17.2、「81.歩くスピードがとても遅い」14.9、「83.体をまっすぐにして歩くことができない」14.4、「106.疲れると足腰が立たなくなってしまう」14.2となった。

オッズ比の結果では「101.目をつぶっての片足立ちができない」58.42が最も高く、 χ^2 値比較と同様の結果になった(図20)。次いで「105.スキップができない」37.96、「106.疲れると足腰が立たなくなってしまう」31.0となった。他にも、「99.階段の昇り降りが不安定で、転げ落ちそうになる」31.0、「103.サッカーで、蹴る足と蹴らない足をどうやって動かすのか分からない」28.76、「30.歩行時にふらつく」28.76となった。

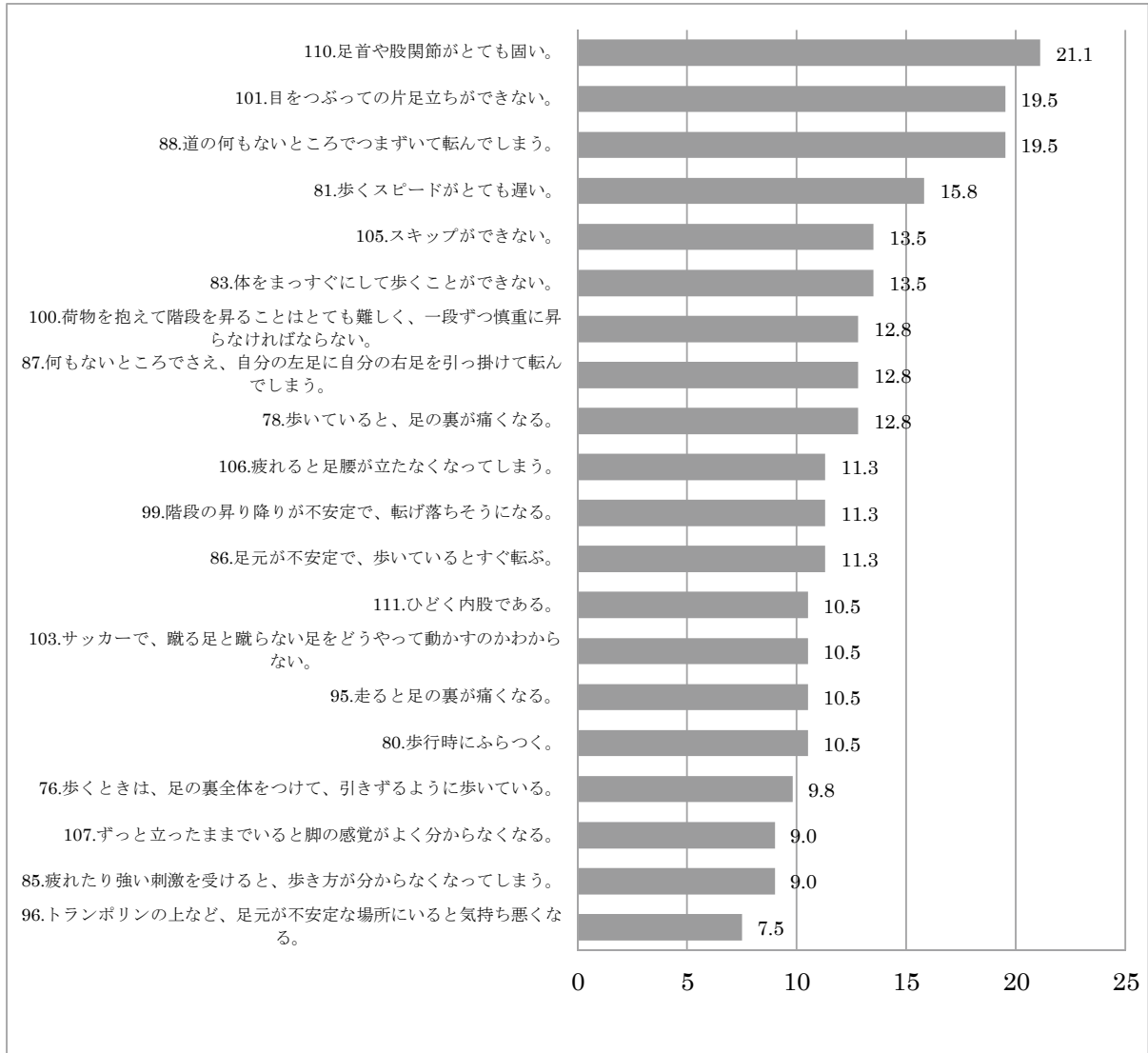


図18 下肢のチェック率の結果(%) n=133名

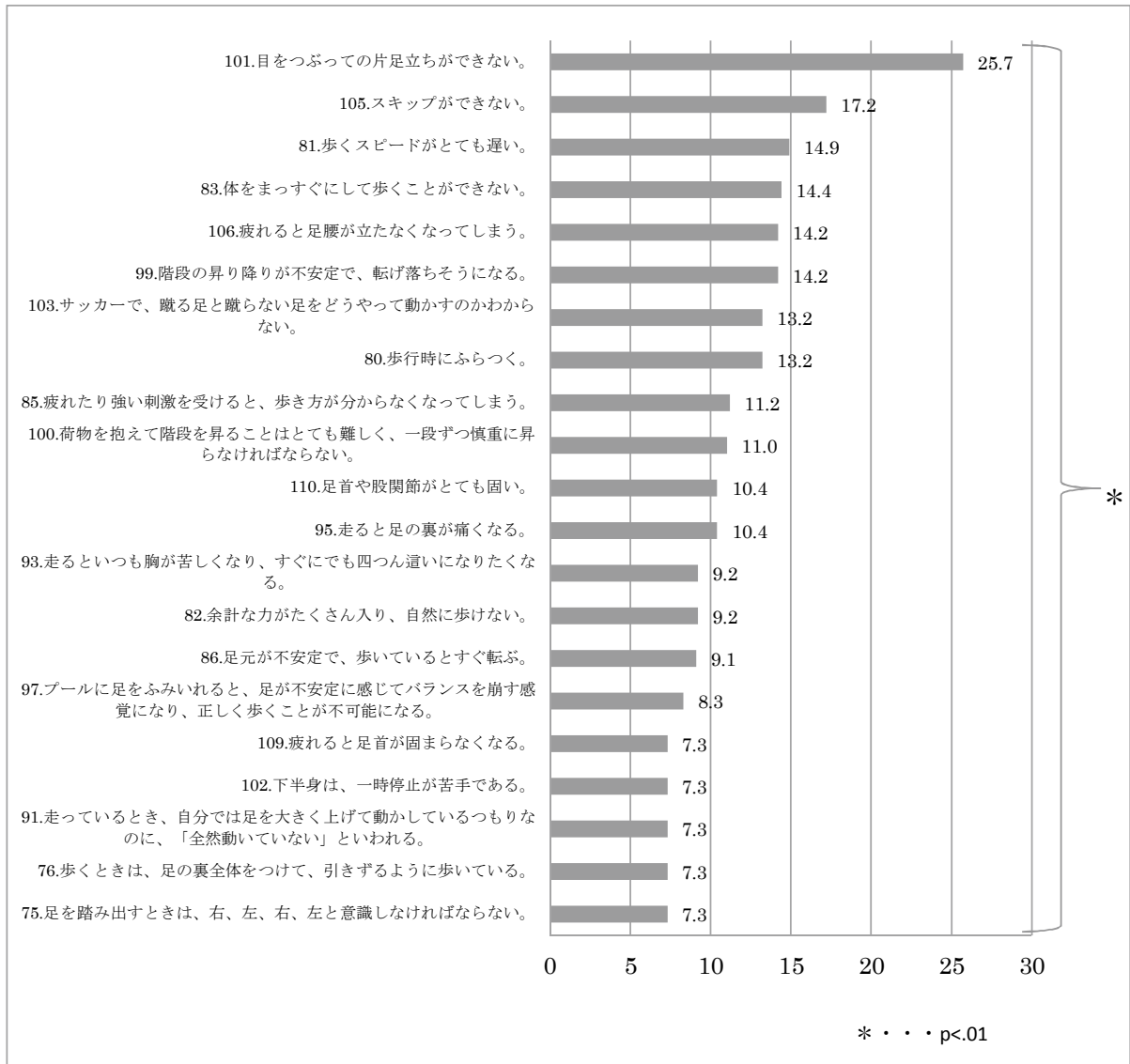


図19 下肢のχ²値比較 n=133名

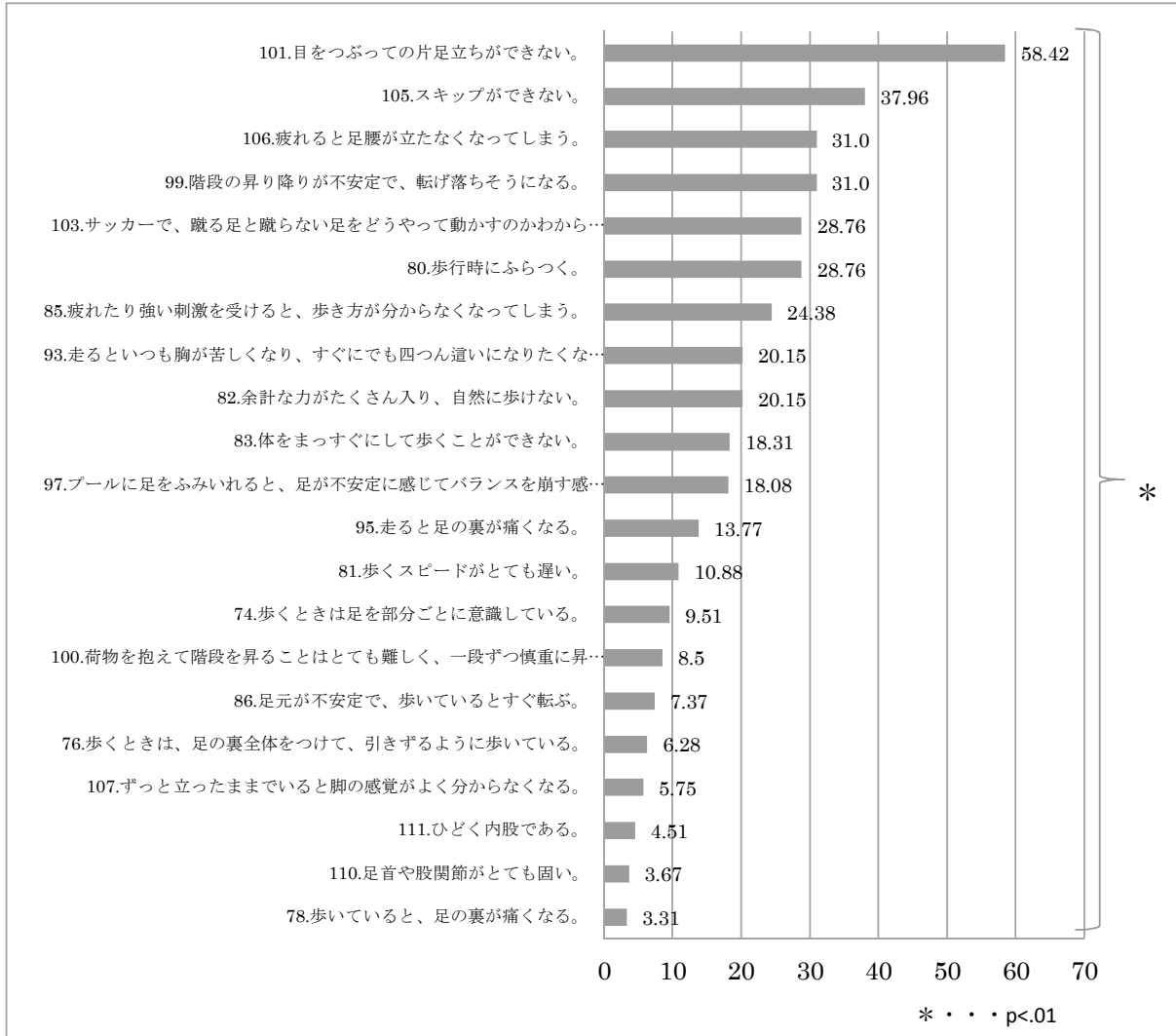


図20 下肢のオッズ比推定 n=133名

3. 2. 7 体全体

体全体の項目で発達障害本人のチェック率が高かった項目は「114.どこからどこまで自分の身体なのかつかみにくい」,「126.ダンスは,振付の覚えが悪く動作がぎこちないので,とても苦手である」36.8%であった(図21)。次いで,「125.ダンスや体操で,先生の動きを真似するのがとても難しい」33.1%,「127.自分は『できたつもり』でも,他人から見ると本当の動きとは違う場合が多い」30.1%,「151.リズムカルな動きを人や音楽と合わせることは至難の技である」27.1%となった。

χ^2 検定結果では「135.運動中はほかの人に比べてひどく疲れやすい」25.6が最も χ^2 値が高い項目として挙げられ,続いて「126.ダンスは,振付の覚えが悪く動作がぎこちないので,とても苦手である」22.4,「125.ダンスや体操で,先生の動きを真似するのがとても難しい」22.4,「135.自分が指示されたり参加したりするときに,

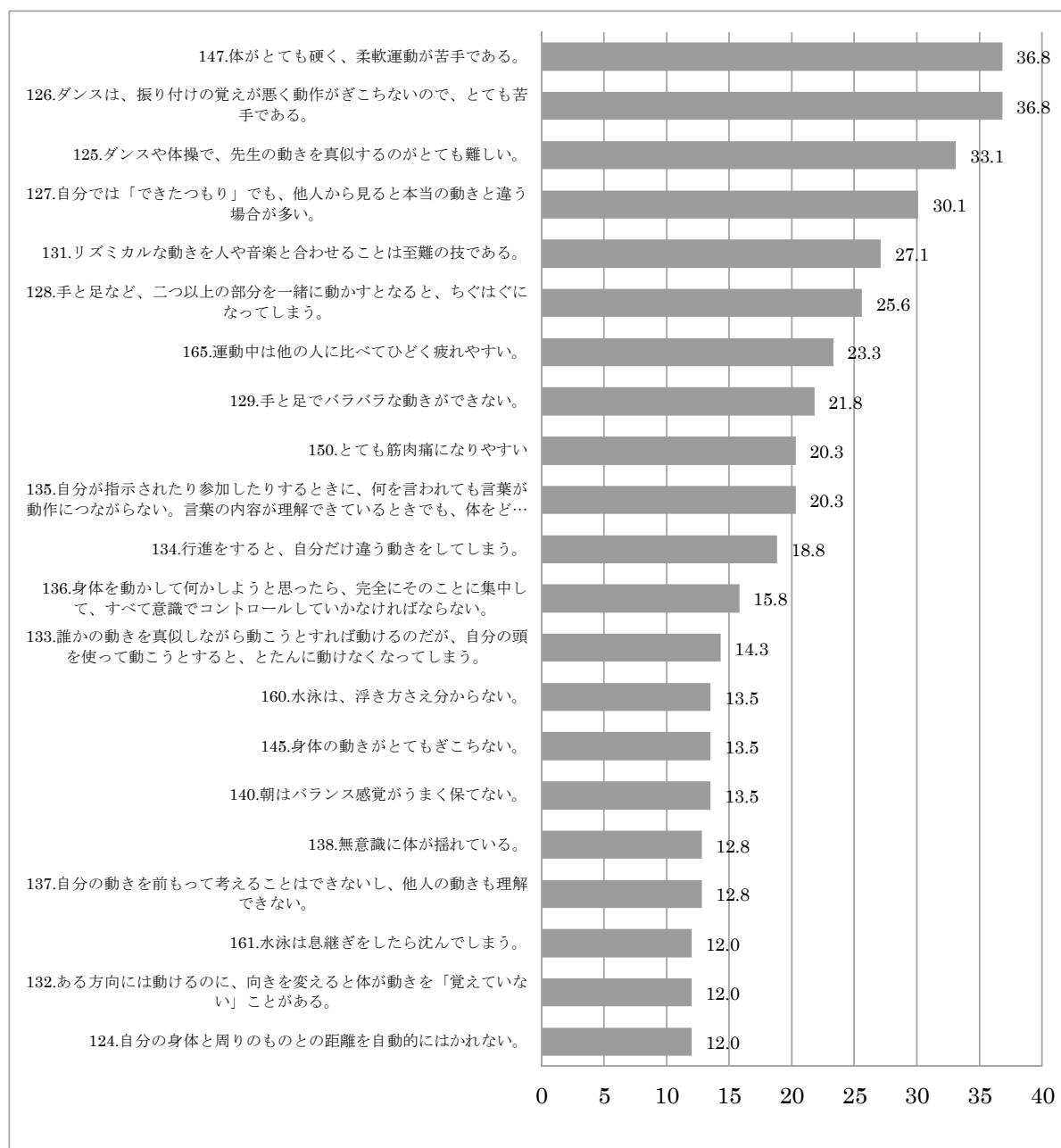


図21 体全体のチェック率の結果(%) n=133名

何を言われても言葉が動作につながらない。言葉の内容が理解できているときでも、体をどう動かしたらいいのか分からない」21.2, 「147.体がとても硬く、柔軟運動が苦手である」20.7となった(図22)。

オッズ比の結果では「145.身体の動きがとてもぎこちない」57.96, 「140.朝はバランス感覚がうまく保てない」57.96が最もオッズ比の数値が高かった(図23)。次いで「159.バランス感覚が悪く、普通に立っていることができない」51.0, 「148.全身に錘がぶらさがっているように感じる」27.25, 「164.ほめられて嬉しかったり感情が盛り上がると、身体の力が抜けて脱力してしまう」26.33となった。

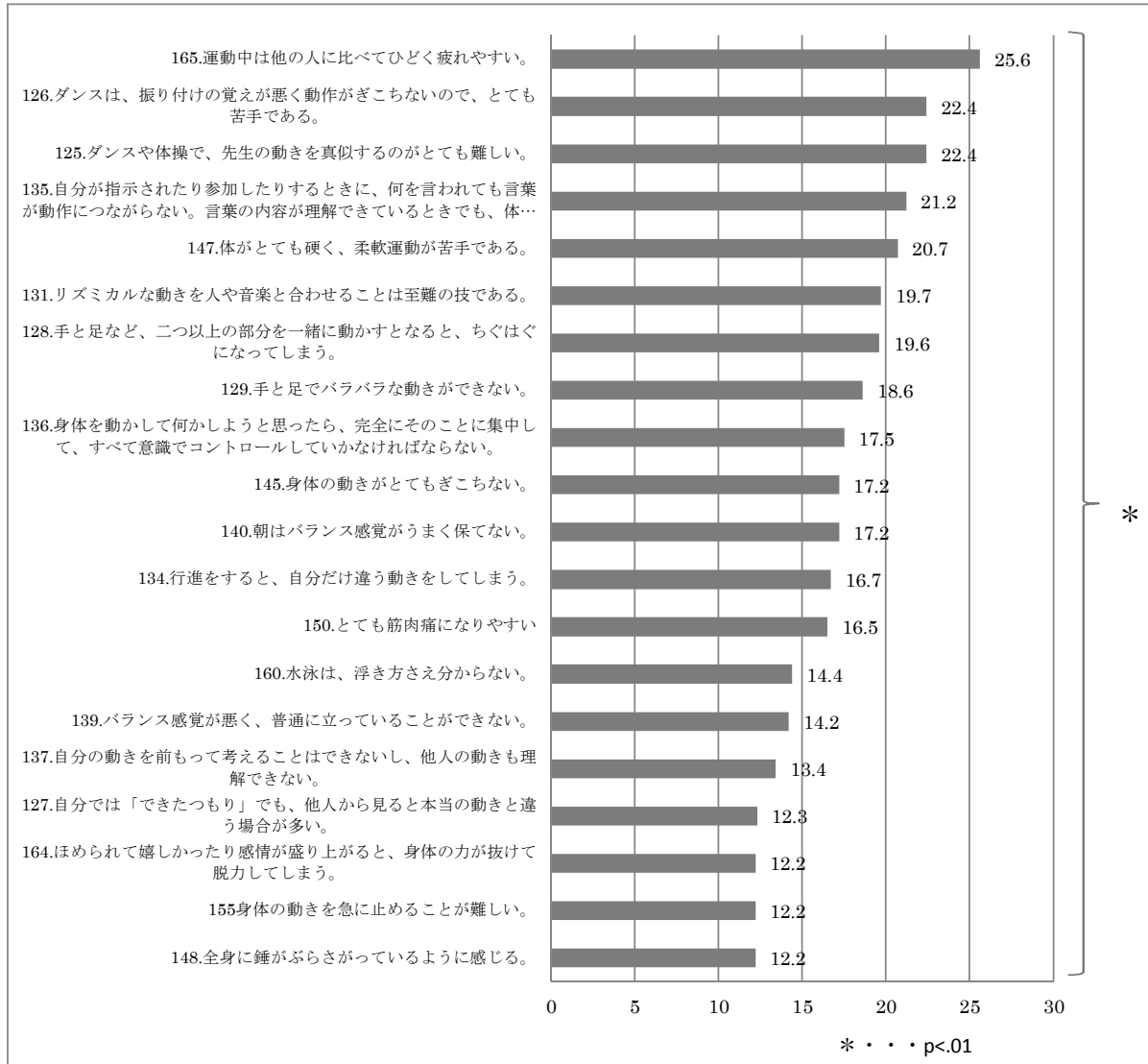


図22 体全体の χ^2 値比較 n=133名

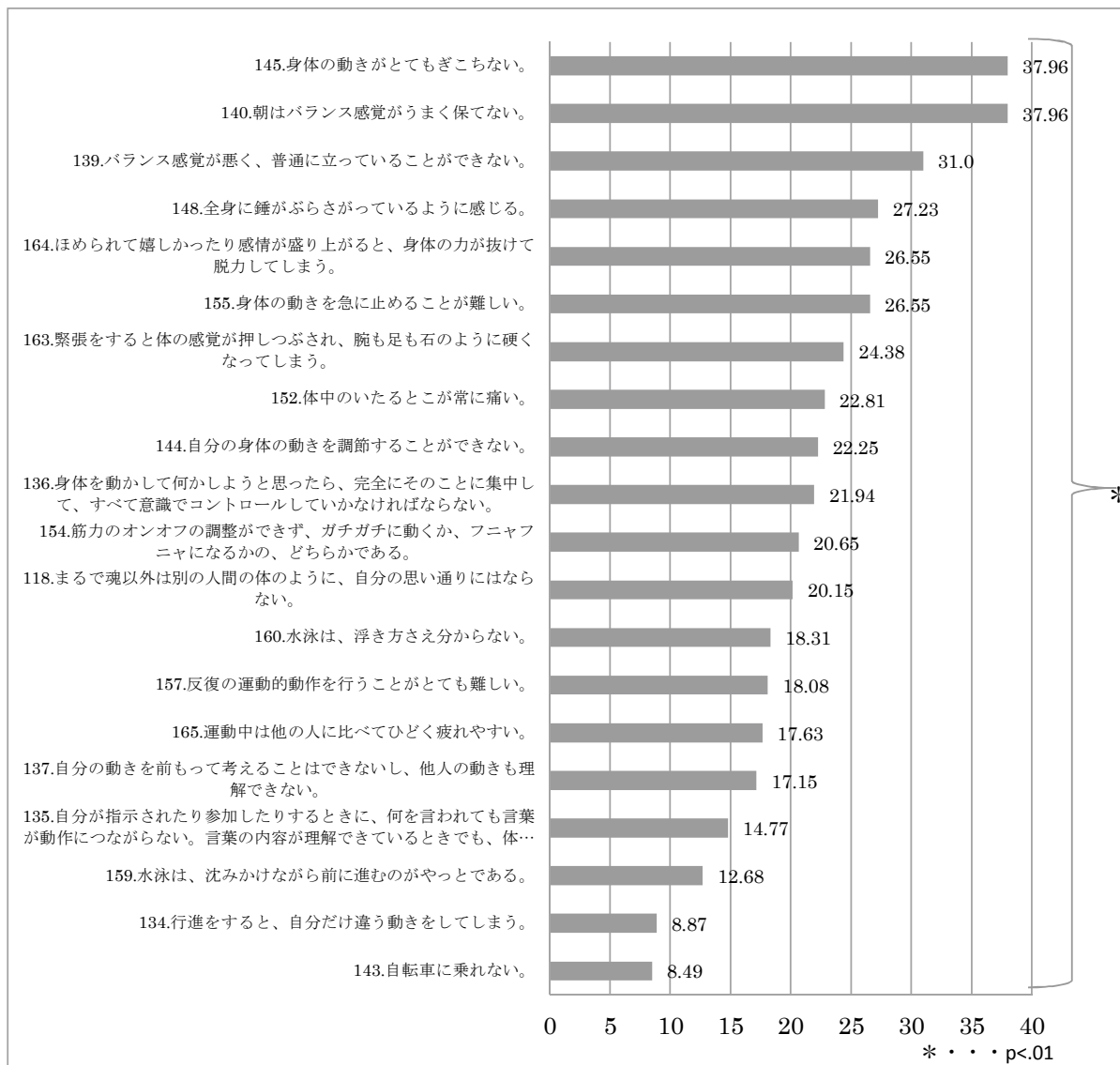


図23 体全体のオッズ比推定 n=133名

3. 2. 8 その他

その他の項目で発達障害本人のチェック率が最も高かったのは「169.右と左で違う運動ができない」19.5%となった(図24)。次いで「171.右と左がよく分からない。急に言われると混乱する」18.8%,「174.利き手の右手より左手の方が使いやすいときがある」15.0%,「168.右と左を交互に動かす『クロスパターン』の動作がとても苦手」15.0%となった。他にも「178.運動機能は日によって大きな差が出る」13.5%,「167.左右の手足をバランスよく動かせない」13.5%となっており、左右関係の困難に関する項目が上位となった。

χ^2 検定結果では「167.左右の手足をバランスよく動かせない」17.2がもっとも χ^2 値が高い項目として挙がり、次いで「179.ピタッとした服を着るとますます動けなくなってしまう」16.4,「178.運動機能は日によって大きな差が出る」14.4,「170.左右対称の動き方ができない」14.2となった。また、チェック率上位には入っていなかった「179.ピタッとした服を着るとますます動けなくなってしまう」11.2の項目が χ^2 値の上位に挙がった(図25)。

オッズ比の結果では「167.左右の手足をバランスよく動かせない」37.96が最も高く、 χ^2 値比較と同様の結果になった(図26)。次いで「170.左右対称の動き方ができない」31.0,「179.ピタッとした服を着るとますます動けなくなってしまう」24.38,「172.まわれ右,左ができない」24.38,「168.右と左を交互に動かす『クロスパターン』の動作がとても苦手」20.71となり、左右関係の調査項目が軒並み上位となった。

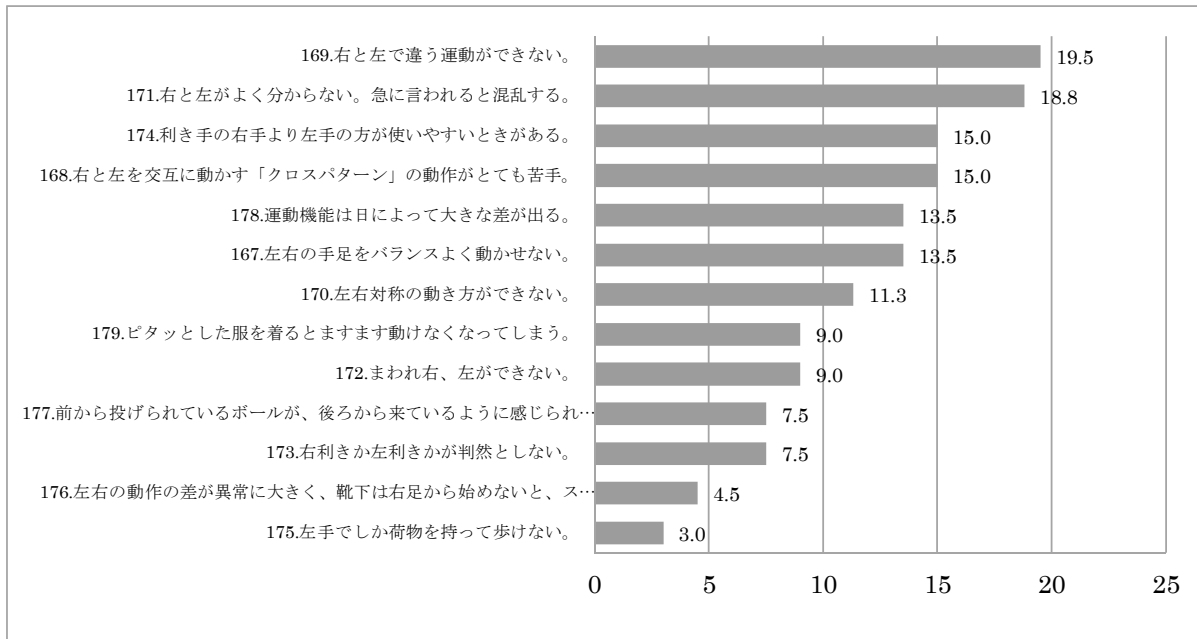


図24 その他のチェック率の結果 (%) n=133名

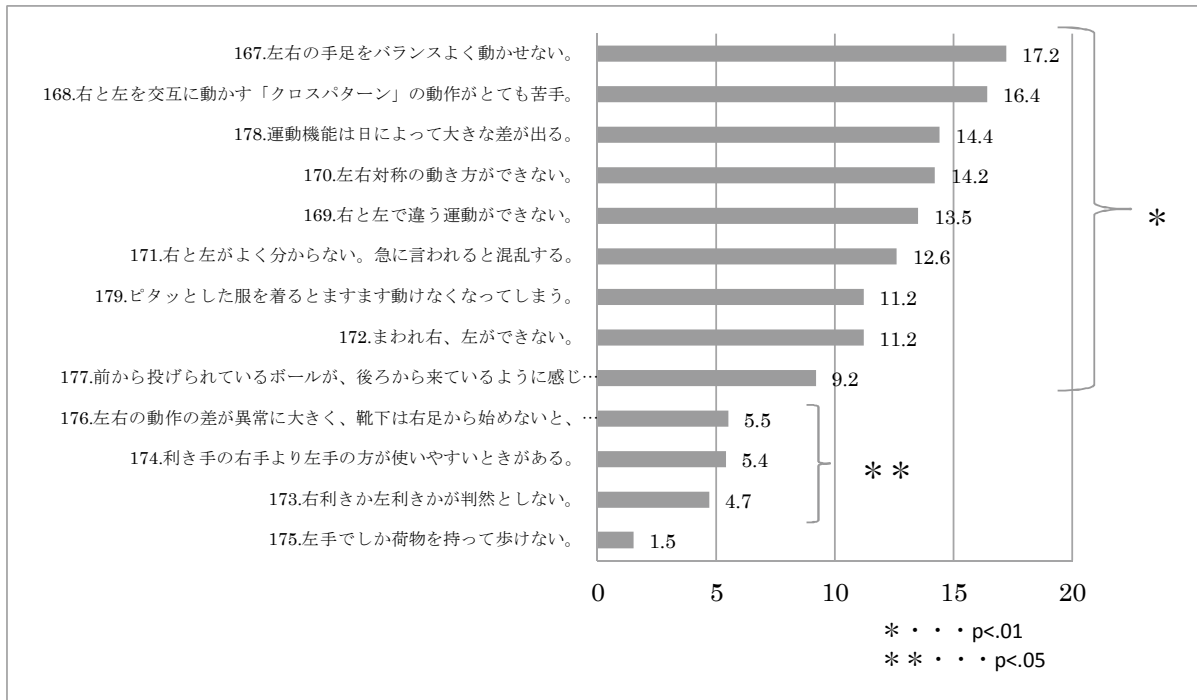


図25 その他の χ^2 値比較 n=133名

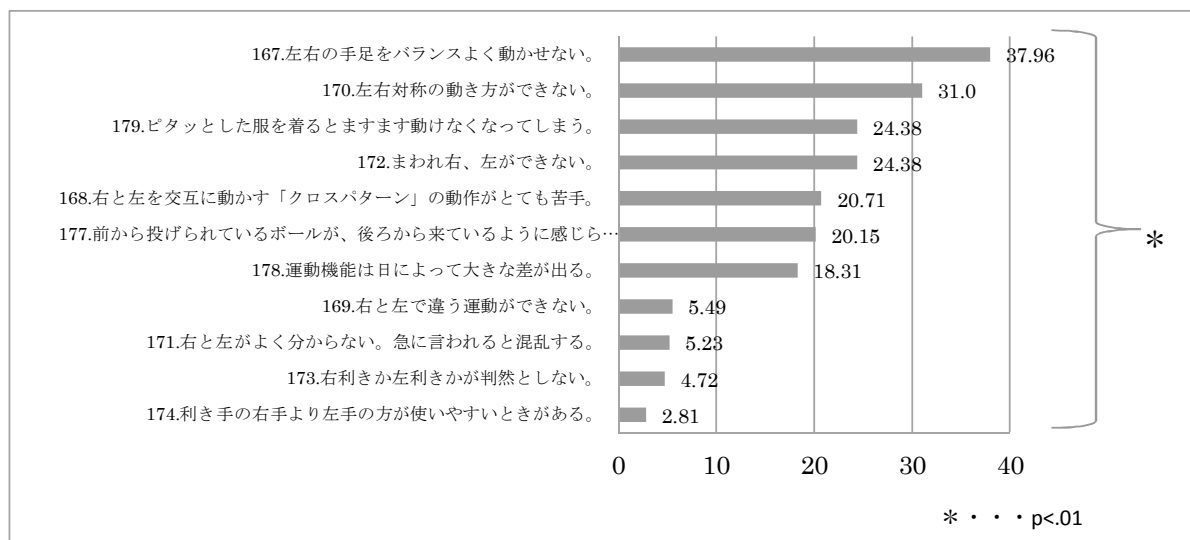


図26 その他のオッズ比推定 n=133名

3. 3 全項目の中で「身体の動きにくさ」の困難度の高い20項目

全項目における χ^2 値比較の中で、 χ^2 値のとくに高い20項目について示したものが図27である。これらの項目はすべて1%水準で有意差が見られた。一番有意差が大きいのが「33.作業速度が遅く、図工や家庭科では期限までに作品を仕上げるのが一苦勞だった」40.5であり、チェック率でも42.9%と全体の項目の中で2番目に高い。上位20項目のうち9項目が上肢に関する項目であった。「51.精密さや細かさを要求される作業が苦手である」39.9、「60.鍵盤ハーモニカやリコーダー等、楽器は全くと言っていいほど弾けない」31.7など、手指の巧緻性に関する項目の χ^2 値が高くなった。また「3.眼球が不器用で、数行飛ばし読みをしてしまうことがよくある」28.1、「9.びっくりしたり、緊張したり、恥ずかしかったりしたときも、固まるだけで表情を表に出すことができない」27.1など、眼球運動や表情に関する項目も上位となった。

オッズ比の高かった上位20項目をまとめたものが図28である。オッズ比の最も大きい項目は「43.字を枠に納めることに苦勞する」75.89、次いで「3.眼球が不器用で、数行飛ばし読みをしてしまうことがよくある」69.84であった。眼球運動の困難に関する項目については「2.眼球に不器用があり、目がうまく回らない。」42.81、「1.目を左右に動かす運動が苦手であり、横書きの本を読むと車酔いのように気持ち悪くなってしまう」42.81の2項目の数値が高くなった。

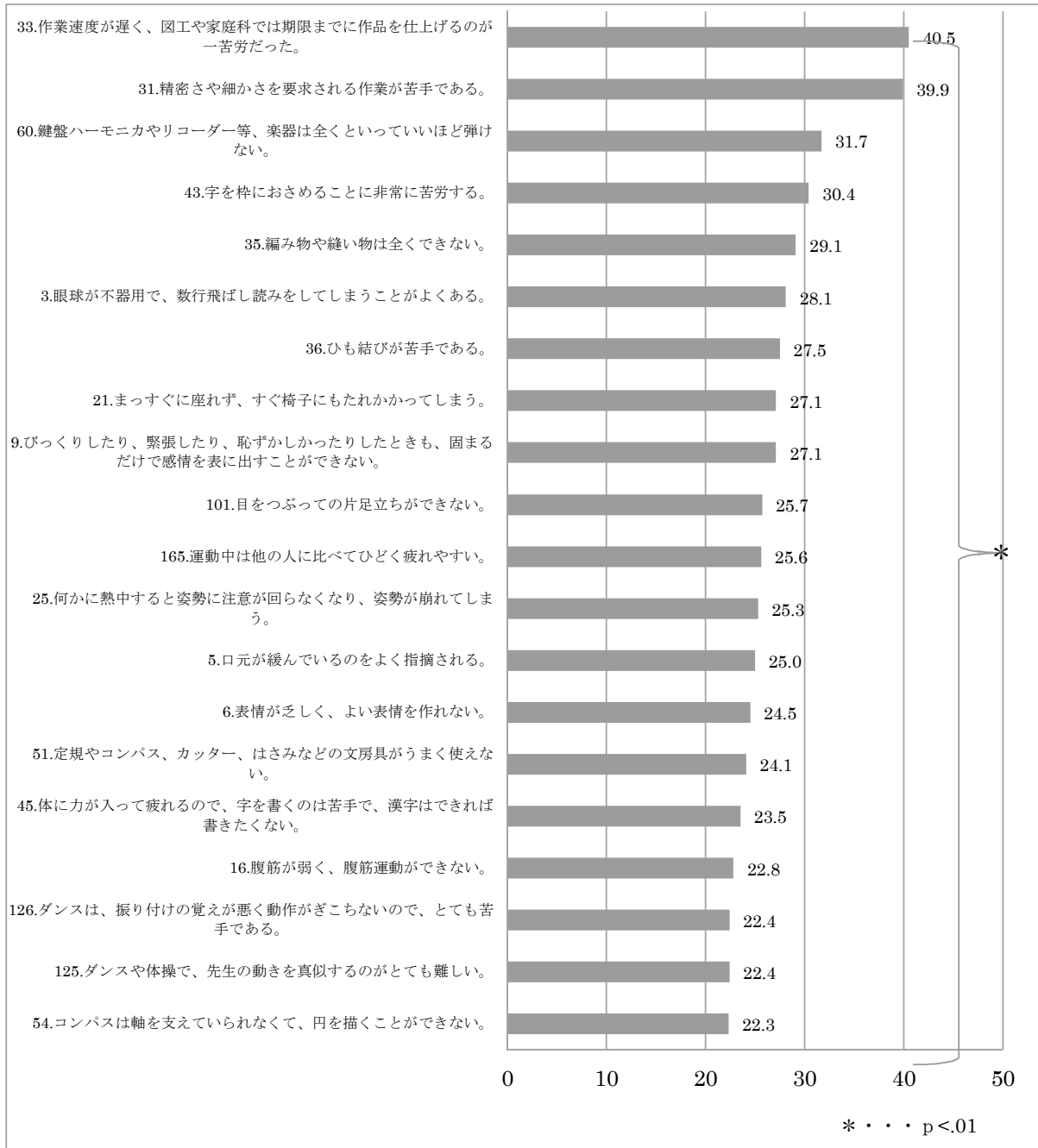


図27 χ^2 値比較により高い数値を示した上位20項目 n=133名

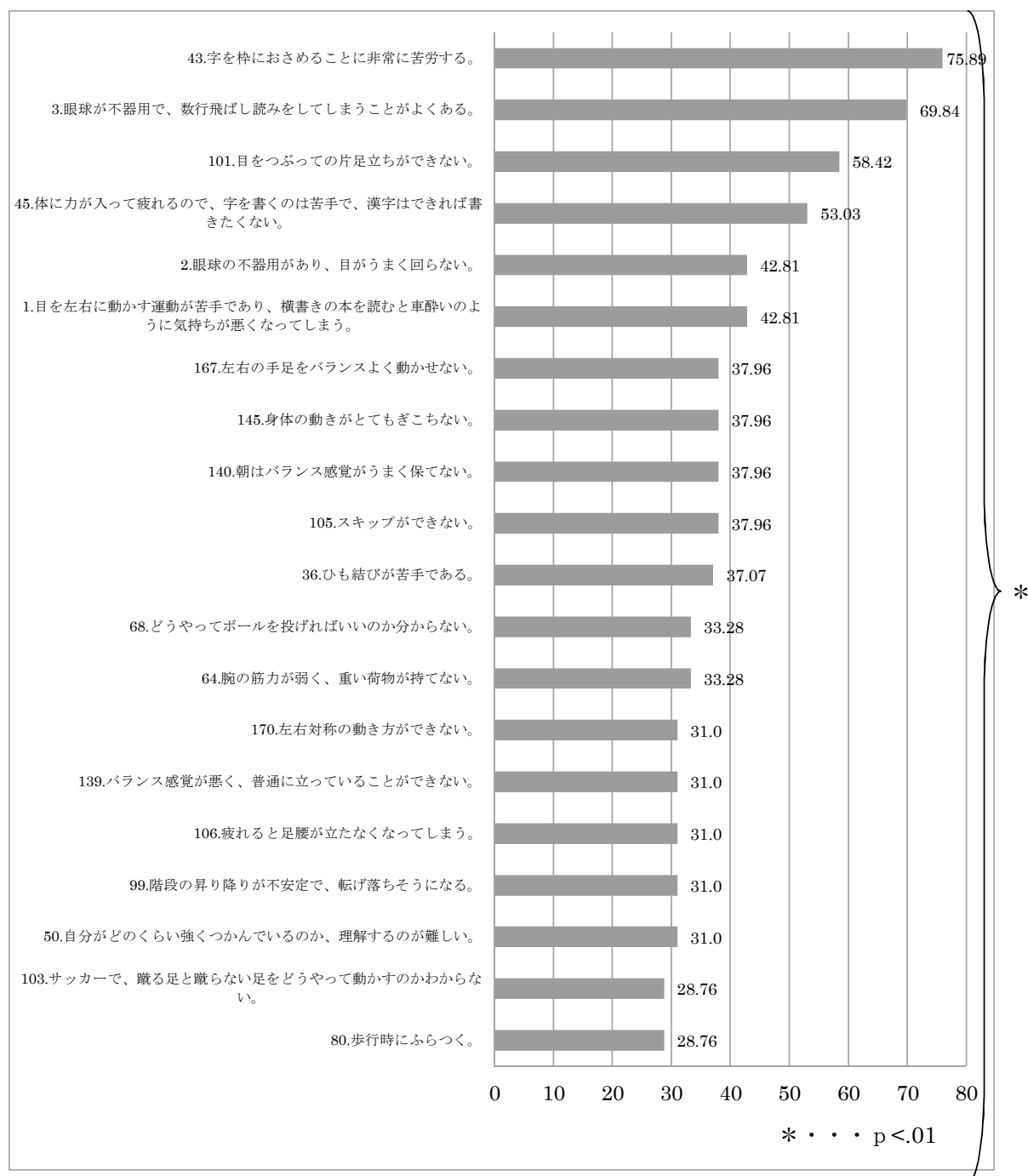


図28 オッズ比により高い数値を示した上位20項目 n=133名

3. 4 「身体の動きにくさ」に関する支援ニーズの調査結果

支援ニーズのチェック項目全16件のうち、最も多くチェックがついたのは「3.動きについての具体的なイメージ、図や映像を見せてほしい」32.9%であった(図29)。次いで「14.罫線がないと字をまっすぐ書くことができないので、罫線入りの紙を渡してほしい」30.7%、「10.体育の授業は進度別クラスにしてほしい」30.7%、「7.動きがおかしいときは、何がどうおかしいのか、細かく教えてほしい」30.7%となっている。他にも「8.すぐには体を動かさなくても、教えることをあきらめないでほしい」29.5%、「2.動きは、いったん手順を覚えてしまえたら、あとは流れて続けていける。体育の授業もパターン化してほしい」27.3%となっている。

χ^2 値の結果では「14.罫線がないと字をまっすぐ書くことができないので、罫線入りの紙を渡してほしい」33.3が最も高く、次いで「15.自筆で文字を書くことがとても嫌なので、パソコンを使うことを認めてほしい」25.6、「2.動きは、いったん手順を覚えてしまえたら、あとは流れて続けていける。体育の授業もパターン化

してほしい」25.2, 「1.何をすることになるか分かっていて、動きの範囲が限られていると、身体をどのように動かそうか選ぶときの強い緊張をずいぶん減らすことができる」24.6となった(図30)。他にも「10.体育の授業は進度別クラスにしてほしい」の χ^2 値が23.9となった。

オッズ比の結果では「1.何をすることになるか分かっていて、動きの範囲が限られていると、身体をどのように動かそうか選ぶときの強い緊張をずいぶん減らすことができる」55.7のオッズ比が最も大きく、次いで「14.罫線がないと字をまっすぐ書くことができないので、罫線入りの紙を渡してほしい」45.09, 「9.運動機能は日によって大きな差が生じる。『昨日はできたのに今日はできない』ということがあることを理解してほしい」25.76, 「15.自筆で文字を書くことがとても嫌なので、パソコンを使うことを認めてほしい」17.63となった(図31)。他にも「2.動きは、いったん手順を覚えてしまえたら、あとは流れて続けていける。体育の授業もパターン化してほしい」12.65, 「5.音に合わせてだと動けることがあるので、音を流してほしい」10.88のオッズ比が大きかった。

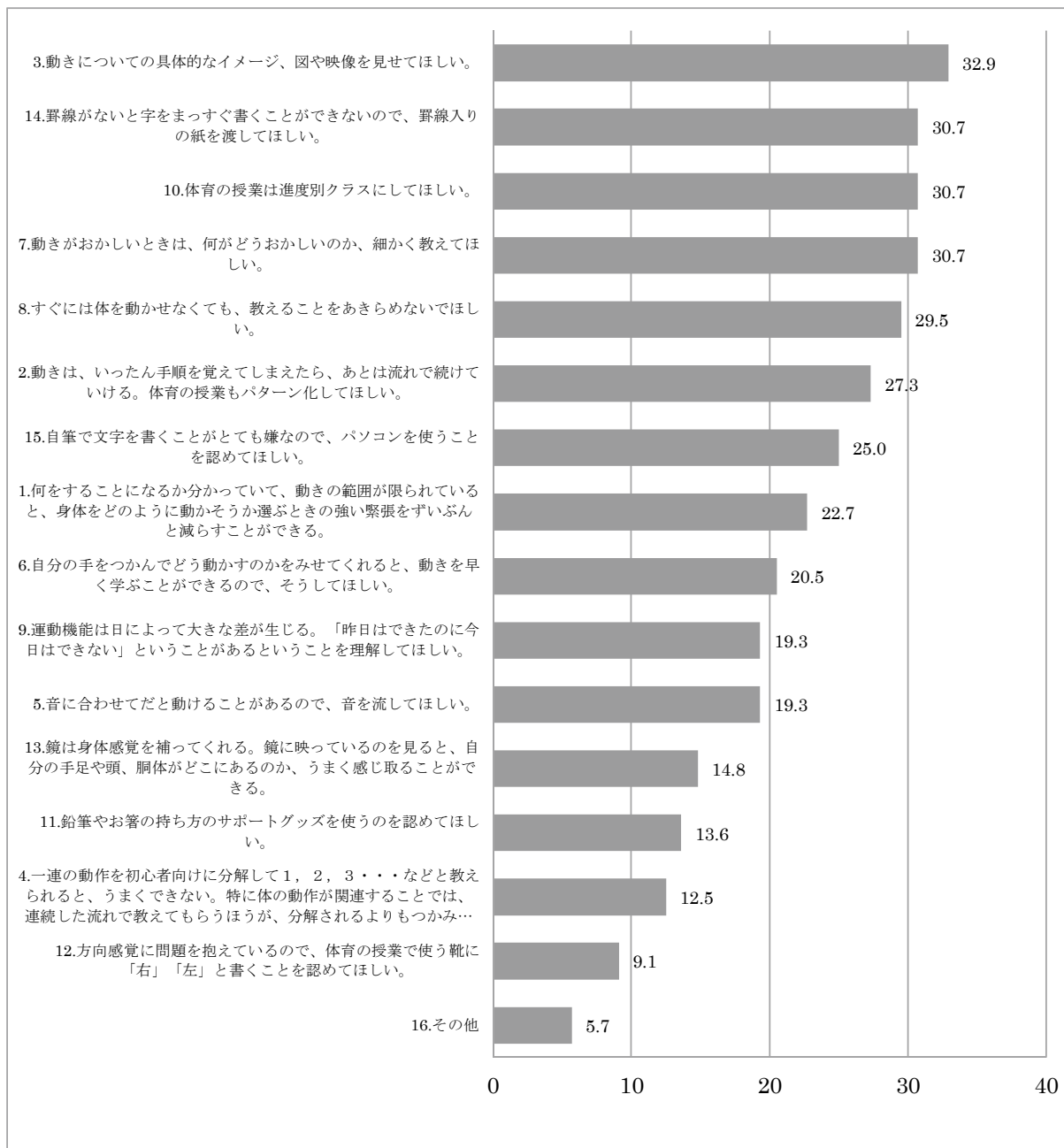


図29 支援ニーズのチェック率の結果(%) n=133名

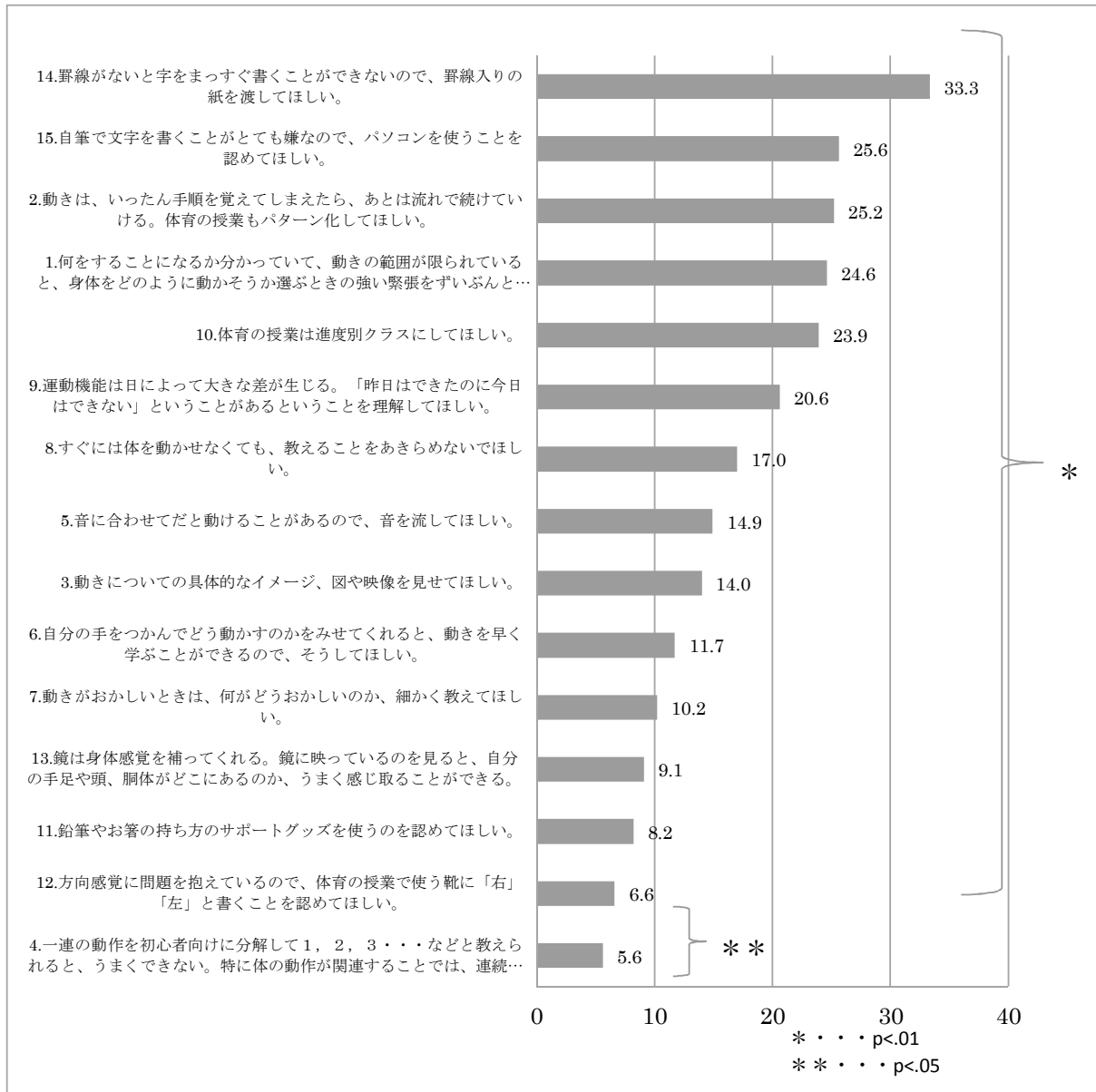


図30 支援ニーズのχ²値比較 n=133名

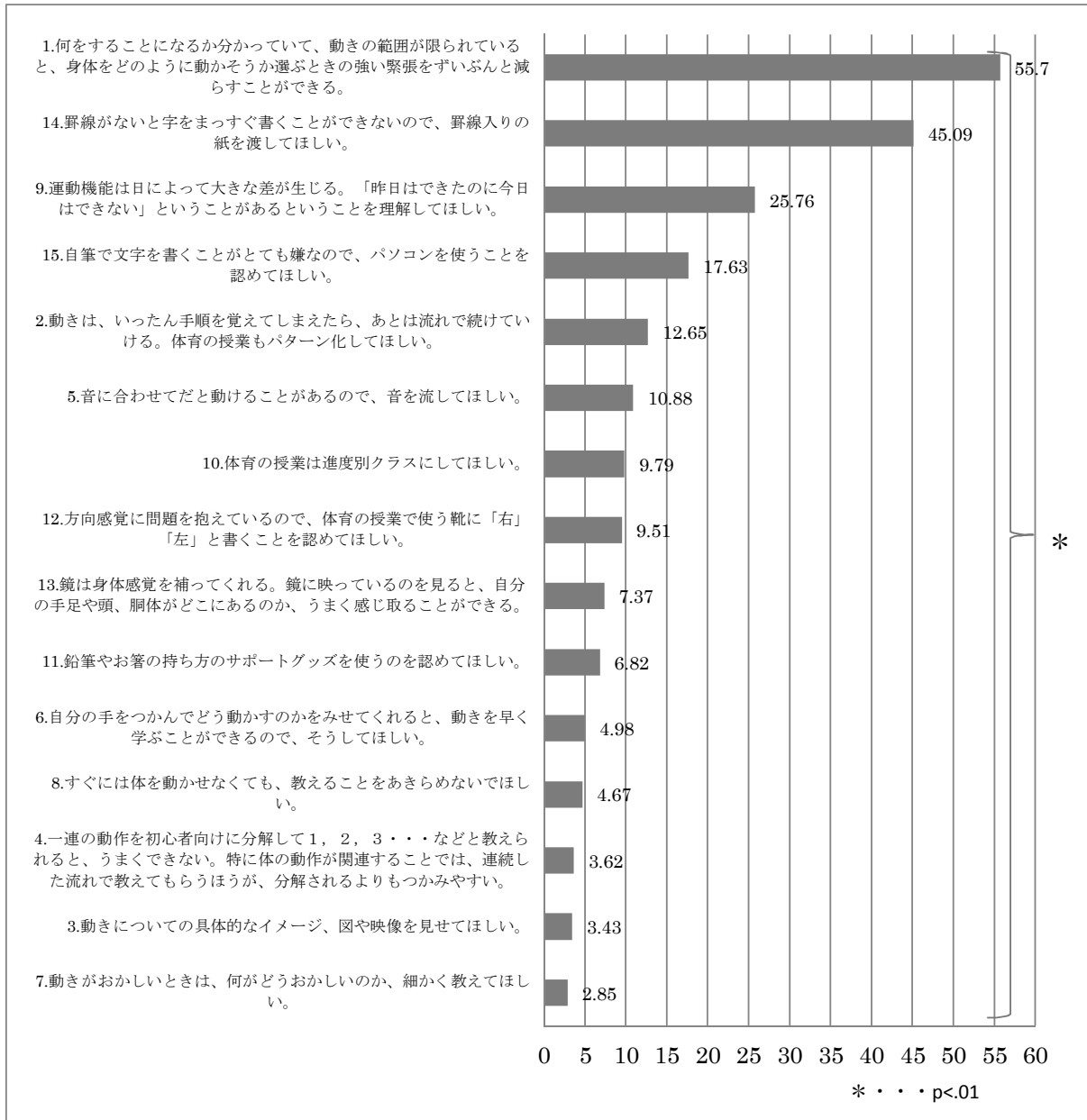


図31 支援ニーズのオッズ比推定 n=133名

4. 「身体の動きにくさ」に関する困難と支援の検討

項目別のチェック率比較において、どの項目においても発達障害本人のチェック率が顕著に高いといえる。発達障害の本人は、個人差があるにしても、身体のどこかで「動きにくさ」に関する困難を抱えている。「身体の動きにくさ」については学校生活・社会生活において見落とされがちであり、必要な支援も十分に行われていない。

項目別の発達障害本人のチェック率は上肢17.6%、頭部16.5%、体全体12.1%の順で高い。項目別の χ^2 値比較では、上肢638.06、体全体508.68、頭部108.67となり、「5.上肢」と「7.体全体」の項目は特に χ^2 値が高く、チェック率と実際の困難度との間に若干の差異がある。上肢は「手指の巧緻性」に関する項目、体全体は「ダンスの困難」や「動きのぎこちなさ」に関する項目の χ^2 値が特に高く、その結果が影響したと考えられる。

頭部では、眼球運動の困難に関する項目が χ^2 値比較、オッズ比ともに多く、「3.眼球運動が不器用で、数行飛ばし読みをしてしまうことがよくある」が χ^2 値比較、オッズ比ともに最も大きいという結果になった。読み飛ばしや逐次読みをする人には水平眼球運動に困難が見られることが多いが、こうした困難は前頭葉の何ら

かの機能不全(岩永:2010)が考えられる。他にも「目がうまく回らない」など目をスムーズに動かせない人が多く、「横書きの本を読むと車酔いのように気持ちが悪くなってしまう」も上位となっている。これは眼球運動のほかに両眼視機能に何らかの困難があることが考えられる。

口元や表情をうまくコントロールできないといった項目も軒並み上位となった。「5.口元が緩んでいるのをよく指摘される」は特に多く、「無意識に口がぽかんと開いてしまう」「集中して物事に取り組んでいるとよだれが出そうになる」なども多い。表情では「9.びっくりしたり、緊張したり、恥ずかしかったりしたときも、固まるだけで感情を表に出すことができない」「6.表情が乏しく、よい表情を作れない」が多かった。「感情が表に出ない」「周りから無表情だと言われる」「表情を変えているつもりでも変わっていない」など、顔の表情に困難を感じている人は多い。

頸部では「13.首が前に傾いているといわれる」が χ^2 値比較、オッズ比ともに有意差が出るという結果になった。これは固有感覚情報処理に困難があり、姿勢を安定させることができているため首を正しい位置で保持することができていないことや、首の生理的カーブが失われてストレートネックになった可能性も考えられる。「12.首がよくつながない感じがする」は χ^2 値比較において有意差が出た。関連して「首いぜんに全身のパーツがバラバラに存在しているように思える」という回答があった。これはボディイメージが確立していない影響で、頭と体がバラバラであるように感じられてしまうことが推定できる。

腹部では「16.腹筋が弱く、腹筋運動ができない」が χ^2 値、オッズ比共に大きかった。次いで「17.体幹の緊張不足で内臓下垂になり、下腹がでてい」についても χ^2 値比較、オッズ比ともに有意差が出た。「いつも下腹が出ている、緊張感がない」という記述のように、前庭感覚からの情報をうまく処理できないために筋緊張が低下し、グニャリとした体つきをしている可能性がある。身体を無理のない範囲で動かし、適度な筋緊張を促すことが必要である。

腰部では座位保持や姿勢保持に関する調査項目が χ^2 値、オッズ比ともに上位となった。特に「21.まっすぐに座れず、すぐ椅子にもたれかかってしまう」が高く、チェック率では本人35.2%に対して学生1.7%であり、この項目も理解されにくい動きにくさであることが示唆される。「理科室などでの丸椅子の座位困難」という回答があるように、まっすぐに座ることができず、背もたれのない椅子だとどうも座れないという人もいる。「25.何かに熱中すると姿勢に注意が回らなくなり、姿勢がくずれてしまう」については「前のめりになる」「熱中すると、体のことは忘れてしまう」など、約4割の方がこのような姿勢を体験しているという結果になった。感覚統合障害には姿勢困難のタイプがあるが(クラノウィッツ:2011)、前庭感覚と固有感覚に困難があり、筋肉の緊張度が低い場合にはグニャリとした姿勢になってしまう。

上肢では、手指の巧緻性に関する調査項目の χ^2 値、オッズ比が上位となり、「31.精密さや細かさを要求される作業が苦手である」の χ^2 値が最も大きかった。この項目は、調査票の全196項目のうち最も高いチェック率となった。山下ら(2010)の調査でも「靴ひものシューズは結ぶのが難しい」という項目について発達障害本人のチェック率が31.7%という高い数値を示しているように、手指の運動の不器用さを抱えている人が多い。また、「33.作業速度が遅く、図工や家庭科では期限までに作品を仕上げるのが一苦労だった」も χ^2 値において上位となり、不器用ゆえに作品制作に時間がかかるという記述が多くあった。オッズ比では「字を枠におさめることに苦勞する」など、書字に関する項目が上位となった。これは手先の不器用さの他に、書字に必要な運動プログラムがうまく立てられないなど、運動企画の困難も影響していると考えられる。

下肢では「101.目をつぶっての片足立ちができない」が χ^2 値、オッズ比ともに大きいという結果になった。「ふらつく」などの記述があり、前庭感覚情報を十分に処理できず、バランスをとることができないことがうかがえる。次いで「スキップができない」が上位となったが、固有感覚が十分に働かず、動作を計画し、順序立てて行うことに困難があるため、スキップのような複雑な動作を行うことが難しいと考えられる。「階段の昇り降りが不安定で、転げ落ちそうになる」も上位となったが、姿勢調整が十分ではないために姿勢を安定させることが困難と考えられる。

体全体では「135.運動中はほかの人に比べてひどく疲れやすい」の χ^2 値が最も大きいという結果になったが、これは山下ら(2010)の調査でも45.0%の高いチェック率を示していた。これは覚醒レベルの維持困難や姿勢コントロール機能が不十分なために、体全体のコントロールができなくなることが原因となっていることが多い(岩永:2010)。一見軽い運動であっても、発達障害を有する人にとっては労力と集中力を要するため

に疲れやすく、十分な休息をとることが必要である。

χ^2 値の結果では、ダンスや模倣の困難に関する調査項目も上位となった。山下ら (2010) の調査でも「決められた踊りをするのができない」という項目のチェック率は35%であり、ダンスに苦手意識を抱いている人が多いことが推測される。前庭感覚や固有感覚の不具合が姿勢や運動行為、模倣に影響を及ぼしていると考えられる。特にダンスはバランスや姿勢背景運動、身体図式、運動企画といった多様な能力が求められるため、困難を感じる人が多い。例えば、鏡を使って自分の体の全体像や動きを把握できるようにすることや丁寧に時間をかけて教えるなどの対応が必要である。

オッズ比では「145. 身体の動きがとてもしこちない」のオッズ比が最も大きかった。「バランス感覚が悪く、普通に立っていることができない」のオッズ比も上位であるが、直立状態を維持するためには、胴体と手足の非常に細かい姿勢調整が自動的に行われる必要がある。前庭感覚とその他の感覚が中枢神経系でうまく統合されず、調和のとれた動きやバランスをとることが困難のため、身体の動きがぎこちなくなってしまうことが推察される。

その他の項目では「167. 左右の手足をバランスよく動かせない」が χ^2 値、オッズ比ともに最も上位であった。他にも「168. 右と左を交互に動かす『クロスパターン』の動作がとてもしこちない」「170. 左右対称の動き方ができない」など、左右関係の困難に関する項目が軒並み上位となった。十分に調整された前庭感覚系が働くことで体の左右から送られてくる感覚メッセージが統合されて、両側協応ができるようになる。両手や両足など、体の左右両側にある部分をチームワークのように協力させて動かすことが難しいという両側協応の困難を有する人は、両手両足を同時に動かすことができない、利き手が定まらない、左右の混乱があるなど、左右関係で多様な困難を抱えている。

「178. 運動機能は日によって大きな差が出る」も χ^2 値、オッズ比ともに上位となった。発達障害の本人は僅かな体調・環境の変化であってもその影響を強く受け、自ら出す運動指令とそのフィードバックは統合されにくい (石原: 2013)。こうした「知覚・運動ループのゆらぎ」に目を向けて環境調整しやすくしたり、体調がすぐれないときはいつでも休むことができるような配慮が必要である。

支援ニーズのチェック項目全16件のうち、最もチェック率が高かったものは「3. 動きについての具体的なイメージ、図や映像を見せてほしい」32.9%であった。これは「健常」学生でもチェック率が11.9%と高めであり、障害の有無にかかわらず具体的なイメージ・図・映像をみせてもらう方が動きやすいということを示唆している。

χ^2 値比較においては「14. 罫線がないと字をまっすぐ書くことができないので、罫線入りの紙を渡してほしい」33.3%が最も上位であった。自由記述に「自分の字に合う、バリエーション豊富な罫線がいい」「罫線があると逆にやりにくい」という指摘もあり、白紙、罫線付き、枠付きなど、多様なバリエーションのなかから各自が選択できることが望ましい。 χ^2 値が2番目に高かった項目は「15. 自筆で文字を書くことがとてもしこちないので、パソコンを使うことを認めてほしい」であった。自由記述で「罫線があっても字をまっすぐ書くのが難しいので、パソコンの使用を認めほしい」という要望があったが、パソコンの使用を含めて柔軟な対応が求められる。

オッズ比で最も上位の項目は「1. 何をすることになるか分かっていて、動きの範囲が限られていると、身体をどのように動かそうか選ぶときの強い緊張をずいぶん減らすことができる」であった。「決まった手順があるとなお良い」「指示を紙でやると助かる」という記述もあった。次いで「9. 運動機能は日によって大きな差が生じる。『昨日はできたのに今日はできない』ということがあることを理解してほしい」であった。他にも「8. すぐには体を動かさなくても、教えることをあきらめないでほしい」が1%水準で有意となった。「優しく教えられれば動かせられ、怒鳴られると緊張感が募る」「長期的な時間 (2週間で1ステップなど) を見て育ててほしい」という自由記述のように、丁寧にじっくりと時間をかけて支援をしていくことが重要である。

5. おわりに

本研究では発達障害の本人の方を対象に、彼らがどのような「身体の動きにくさ」に関する困難・ニーズを抱えているのかについて調査し、求めている支援の課題について明らかにした。調査の方法は、刊行されている発達障害本人の手記をもとに質問紙調査票「『身体の動きにくさ』に関するチェックリスト」を作成して実施した。

χ^2 値比較とオッズ比比較により高い数値を示した項目を見ると、手指の運動の不器用さに関する項目が目立っていた。そのほかに眼球運動の困難に関する項目も目立っている。眼球運動に困難があるとボールの動きを捉えることが難しいなど、球技の苦手さの一因となる可能性もある。また「左右の手足をバランスよく動かさない」「右と左を交互に動かす『クロスパターン』の動作がとても苦手」「左右対称の動き方ができない」など、左右関係の困難に関する項目が軒並み上位となった。両手や両足など体の左右両側にある部分をチームワークのように協力させて動かすことが難しい両側協応の問題をもつ人は、両手両足を同時に動かすことができない、利き手が定まらない、左右の混乱があるなど、左右関係で様々な困難を抱えている。ほかにも、発達障害に特有の感覚統合障害に起因すると考えられるものが、高い困難度を示していた。

今回の調査では発達障害本人133名、学生118名から回答を得たが、両者とも今後の継続調査において回答者数を拡大させ、障害種別、年齢別、就労の有無等との検討を通して、分析結果をより精緻にさせていく必要がある。また身体の部位ごとに本人の困難度の高い項目を算出したが、部位によって設定した項目数にかなりバラツキがあり、とくに項目数が極端に少ない「頭部、頸部、腹部、腰部」については、今後チェック項目を加えて調査分析を重ねていく必要がある。さらに本研究で用いた調査票に対して、調査にご協力いただいた本人の方から「どの程度当てはまっていればチェックするべきなのか尺度が難しい」「調査票の分量が多すぎて負担になる」などの指摘が寄せられたが、調査票の改良も当面の課題である。

【附記】本研究に協力していただいた発達障害の本人・当事者133名、東京学芸大学の学生118名の方々に記してお礼を申し上げる。また本研究は、笹川スポーツ財団「2012年度笹川スポーツ研究助成」(研究代表者：高橋智「本人・当事者調査から探るアスペルガー症候群等の発達障害の子ども・青少年のスポーツ振興の課題」)、東京学芸大学「平成24年度重点研究費」(研究代表者：高橋智「発達障害を有する子どもの身体問題(感覚情報調整処理・身体症状・身体運動)の実相に関する実証的研究—発達障害の本人・当事者のニーズ調査から—」)による研究成果の一部である。

文献

- アクセル・ブラウンズ(浅井 晶子訳, 2005)『鮮やかな影とコウモリ—ある自閉症青年の世界—』インデックス出版。
- 荒木龍三/豊中市社会福祉協議会(2011)『発達障害の僕がホームレスになった理由—訓練, 就労, そして再出発—』ブリコラージュ/筒井書房。
- 綾屋紗月・熊谷晋一郎(2008)『発達障害当事者研究—ゆっくりしていねいにつながりたい—』医学書院。
- アズ直子(2011)『アスペルガーですが、妻で母で社長です。』大和出版。
- アズ直子(2012)『アスペルガーですが、ご理解とご協力をお願いいたします。』大和出版。
- ビリガー・ゼリーン(平野卿子訳, 1999)『もう闇のなかにはいたくない—自閉症と闘う少年の日記—』草思社。
- ベン・ポリス(山本俊至訳, 2003)『ぼくは、ADHD!—自分を操縦する方法—』三輪書店。
- キャロル・ストック・クラノウィッツ, 土田玲子監訳(2011)『でこぼこした発達の子どもたち—発達障害・感覚統合障害を理解し、長所を伸ばすサポートの方法—』すばる社。
- ダグラス・ピクレン編著, リチャード・アトフィールド, ラリー・ビショネットほか著(鈴木真帆監訳, 2009)『「自」らに「閉」じこもらない自閉症者たち—「話せない」7人の自閉症者が指で綴った物語—』エスコアール出版部。
- ダニエル・ステファンスキー, 石井哲夫監修(上田勢子訳2011)『自閉症のある子と友だちになるには—当事者だからわかるつきあい方イラストブッカー—』晶文社。
- ダニエル・タメット(古屋美登里訳, 2007)『ぼくには数字が風景に見える』講談社。

- ドナ・ウィリアムズ (河野万里子訳, 2000) 『自閉症だったわたしへ』新潮社。
- ドナ・ウィリアムズ (河野万里子訳, 2001) 『自閉症だったわたしへ (2)』新潮社。
- ドナ・ウィリアムズ (河野万里子訳, 2002) 『ドナの結婚—自閉症だったわたしへ—』新潮社。
- ドナ・ウィリアムズ (河野万里子訳, 2004) 『自閉症だったわたしへ (3)』新潮社。
- ドナ・ウィリアムズ (2008) 『ドナ・ウィリアムズの自閉症の豊かな世界』明石書店。
- ドナ・ウィリアムズ (川手鷹彦訳, 2009) 『自閉症という体験—失われた感覚を持つ人びと—』誠信書房。
- 藤家寛子 (2004) 『他の誰かになりたかった—多重人格から目覚めた自閉の少女の手記—』花風社。
- 藤家寛子 (2005) 『あの扉の向こうへ—自閉の少女と家族, 成長の物語—』花風社。
- 藤家寛子 (2007) 『自閉っ子は, 早期診断がお好き』花風社。
- 藤家寛子・浅見淳子 (2009) 『自閉っ子的心身安定生活!』花風社。
- フワリ (2012) 『パニックダイジテン (アスペルガーの心)』偕成社
- フワリ (2012) 『わたしもパズルのひとかけら (アスペルガーの心)』偕成社。
- 権田真吾 (2011) 『ぼくはアスペルガー症候群』彩図社。
- ゴトウサンパチ (2011) 『先生がアスペルガーって本当ですか?—現役教師の僕が見つけた幸せの法則—』明石書店。
- グニラ・ガーランド (熊谷高幸監訳, 石井パークマン麻子訳2007) 『自閉症者が語る人間関係と性』東京書籍。
- グニラ・ガーランド (中川弥生訳2003) 『あなた自身のいのちを生きて—アスペルガー症候群, 高機能自閉症, 広汎性発達障害への理解—』クリエイツかもがわ。
- グニラ・ガーランド (ニキ・リンコ訳, 2000) 『ずっと「普通」になりたかった。』花風社。
- 服巻智子 (2006) 『自閉っ子, 自立への道を探る』花風社。
- 服巻智子 (2008) 『自閉っ子は必ず成長する』花風社。
- 服巻智子編・ニキ・リンコほか (2006) 『自閉症スペクトラム青年期・成人期のサクセスガイド』クリエイツかもがわ。
- 服巻智子編, リアン・ホリデー・ウィリーほか (2008) 『当事者が語る異文化としてのアスペルガー』クリエイツかもがわ。
- 服巻智子編・満石理恵ほか (2009) 『当事者が語る結婚・子育て・家庭生活』クリエイツかもがわ。
- 東田直樹 (2007) 『自閉症の僕が跳びはねる理由—会話の出来ない中学生がつづる内なる心—』エスコアール出版部。
- 東田直樹 (2010) 『続・自閉症の僕が跳びはねる理由—会話のできない高校生がたどる心の軌跡—』エスコアール出版部。
- 東田直樹・東田美紀 (2005) 『この地球にすんでいる僕の仲間たちへ—12歳の僕が知っている自閉の世界—』エスコアール出版部。
- 筆談補助の会編 (2008) 『言えない気持ちを伝えたい—発達障害のある人へのコミュニケーションを支援する筆談補助—』エスコアール出版部。
- 保科ハルカ (2010) 『PLASTIC DOLL—アスペルガー的半生—』東京図書出版社。
- 星空千手 (2007) 『わが家は自閉率40%—アスペルガー症候群親子は転んでもただでは起きぬ—』中央法規。
- 池田歩美・加藤匡宏・相模健人・佐藤公代 (2004) アスペルガー障害児に対する感覚統合訓練法の治療効果, 『愛媛大学教育学部紀要第I部教育科学』50 (2), pp89-96。
- 池宮一朗 (2008) 『アスペルガー症候群と共に生きる僕の勇気—歪んだ社会を変えるために—』文芸社。
- 石原孝二 (2013) 『当事者研究の研究』医学書院。
- 岩永竜一郎 (2010) 『自閉症スペクトラムの子どもへの感覚・運動アプローチ入門』東京書籍。
- 岩永竜一郎, 藤家寛子, ニキ・リンコ (2008) 『続自閉っ子, こういう風にできてます! 自立のための身体づくり』花風社。
- 岩永竜一郎, ニキ・リンコ, 藤家寛子 (2009) 『続々自閉っ子, こういう風にできてます! 自立のための環境づくり』花風社。
- 泉流星 (2003) 『地球生まれの異星人—自閉者として, 日本に生きる—』花風社。
- 泉流星 (2008) 『エイリアンの地球ライフ—おとなの高機能自閉症/アスペルガー症候群—』新潮社。
- 泉流星 (2008) 『僕の妻はエイリアン—「高機能自閉症」との不思議な結婚生活—』新潮社文庫。
- ジェリー・ニューポート, ジョニー・ドッド, メアリー・ニューポート (八坂ありさ訳2007) 『モーツァルトとクジラ』日本放送出版協会。
- ジェリー・ニューポート, メアリー・ニューポート (ニキ・リンコ訳2010) 『アスペルガー症候群—思春期からの性と恋愛—』クリエイツかもがわ。
- ジュネヴィエーヴ, エドモンズ, ルーク, ベアドン (2011) 『アスペルガー—流人間関係—14人それぞれの経験と工夫—』東京書籍。
- ジョン・エルダー・ロビンソン (テラー幸恵訳2009) 『眼を見なさい!—アスペルガーとともに生きる—』東京書籍。

- ジョン・エルダー・ロビンソン (藤井良江訳2012) 『変わり者でいこう—あるアスペルガー者の冒険—』 東京書籍。
- 兼田絢未 (2011) 『親子アスペルガー—ちょっと脳のタイプが違います』 合同出版。
- カムラン・ナジュール (神崎朗子訳2011) 『ぼくたちが見た世界—自閉症児者によって綴られた物語—』 柏書房。
- カトリン・ベントリー (室崎育美訳2008) 『一緒にいてもひとり—アスペルガーの結婚がうまくいくために—』 東京書籍。
- ケネス・ホール (野坂悦子訳2001) 『もっと知ってよ ぼくらのことを』 東京書籍。
- キャスリーン・ナデュー Ph.D / パトリシア・クイン M.D (ニキ・リンコ / 沢木あさみ訳2003) 『AD / HD & BODY—女性のAD / HDのすべて』 花風社。
- キャスリーン・ナデュー Ph.D / パトリシア・クイン M.D (沢木あさみ訳2003) 『AD / HD & セラピー—女性のAD / HDと生活術』 花風社。
- 小道モコ (2009) 『あたし研究—自閉症スペクトラム小道モコの場合—』 クリエイトかもがわ。
- 是枝喜代治 (2005) 不器用な子どものアセスメントと教育的支援, 『発達障害研究』 27 (1)。
- 高森明 (2007) 『アスペルガー当事者が語る特別支援教育—スロー・ランナーのすすめ—』 金子書房。
- 高森明 (2010) 『漂流する発達障害の若者たち—開かれたセイフティネット社会を—』 ぶどう社。
- 高森明・木下千紗子・南雲明彦・高橋今日子・片岡麻美・橙山緑・鈴木大知・アハメッド敦子 (2008) 『私たち, 発達障害と生きてます—出会い, そして再生へ—』 ぶどう社。
- 香野毅 (2010) 発達障害児の姿勢や身体の動きに関する研究動向, 『特殊教育学研究』 48 (1), pp43-53。
- リアン・ホリデー・ウィリー (ニキ・リンコ訳2002) 『アスペルガー的人生』 東京書籍。
- リアン・ホリデー・ウィリー (ニキ・リンコ訳2007) 『私と娘, 家族の中のアスペルガー—ほがらかにくらすための私たちのやりかた—』 明石書店。
- Lobin H. (2011) 『無限振り—精神科医となった自閉症者の声無き叫び—』 共同医書出版社。
- 森口奈緒美 (2002) 『平行線—ある自閉症者の青年期の回想—』 ブレーン出版。
- 森口奈緒美 (2004) 『変光星—自閉の少女に見えていた世界—』 花風社。
- 村上由美 (2012) 『アスペルガーの館』 講談社。
- 中田大地 (2010) 『ぼく, アスペルガーかもしれない。』 花風社。
- 中田大地 (2010) 『僕たちは発達しているよ』 花風社。
- 中田大地 (2011) 『僕は, 社会(みんな)の中で生きる。お家で, 学校で, アスペルガーの僕が毎日お勉強していること』 花風社。
- 中山玲 (2003) 『わかっているのにできない, やめられない—それでも ADHD と共存する方法—』 花風社。
- 成澤達哉 (2004) 『My フェアリー・ハート わたし, アスペルガー症候群。』 文芸社。
- ニキ・リンコ (2005) 『俺ルール!—自閉は急に止まれない—』 花風社。
- ニキ・リンコ (2007) 『自閉っ子, えっちらおっちら世を渡る』 花風社。
- ニキ・リンコ (2007) 『自閉っ子におけるモンダイな想像力』 花風社。
- ニキ・リンコ (2008) 『スルーできない脳 自閉は脳の便秘です』 生活書院。
- ニキ・リンコ, 藤家寛子 (2004) 『自閉っ子, こういう風にできてます!』 花風社。
- ニキ・リンコ, 仲本博子 (2006) 『自閉っ子, 深読みしなけりゃうまくいく』 花風社。
- 岡野高明, ニキ・リンコ (2002) 『教えて私の「脳みそ」のかたち—大人になって自分の ADHD, アスペルガー障害に気づく—』 花風社。
- 沖田×華 (2010) 『ニトロちゃん—みんなと違う, 発達障害の私—』 光文社。
- 沖田×華 (2012) 『毎日やらかしてます。アスペルガーで, 漫画家で』 ぶんか社。
- ルディ・シモン (牧野恵訳, 2011) 『アスパーガール—アスペルガーの女性に力を—』 スペクトラム出版社。
- ルーク・ジャクソン (ニキ・リンコ訳2005) 『青年期のアスペルガー症候群 仲間たちへ, まわりの人へ』 スペクトラム出版社。
- 笹森理恵 (2009) 『ADHD・アスペ系ママ—へんちゃんのポジティブライフ—発達障害を個性に変えて』 明石書店。
- サリソルデン (ニキ・リンコ訳2000) 『片づけられない女たち』 WAVE 出版。
- サリソルデン (ニキ・リンコ訳2005) 『「片づけられない人」の人生ガイド』 WAVE 出版。
- 白井由佳 (2002) 『オロオロしなくていいんだね!—ADHD サバイバル・ダイアリー—』 花風社。
- 白井由佳 (2003) 『ビクビクするのはやめようよ!—ADHD の人のための人間関係ガイド—』 花風社。
- スティーブン・ショア (森由美子訳2004) 『壁のむこうへ—自閉症の私の人生—』 学習研究社。

- しーた (2010) 『アスペルガー症候群だっていいじゃない—私の凸凹生活研究レポート1』 学習研究社。
- しーた (2011) 『発達障害 工夫したい支援したい—私の凸凹生活研究レポート2—』 学研教育出版。
- 高橋紗都・高橋尚美 (2008) 『うわわ手帳と私のアスペルガー症候群—10歳の少女が綴る感性豊かな世界—』 クリエイツかもがわ。
- 高橋智・増渕美穂 (2008) アスペルガー症候群・高機能自閉症における「感覚過敏・鈍麻」の実態と支援に関する研究—本人へのニーズ調査から—, 『東京学芸大学紀要 (総合教育科学系)』 第59集。
- 高橋智・石川衣紀・田部絢子 (2011) 本人調査からみた発達障害者の「身体症状 (身体の不調・不具合)」の検討, 『東京学芸大学紀要総合教育科学系II』 第62集。
- 高橋智・田部絢子・石川衣紀 (2012) 発達障害の身体問題 (感覚情報調整処理・身体症状・身体運動) の諸相—発達障害の当事者調査から—, 『障害者問題研究』 40 (1)。
- テンブル・グランディン, マーガレット・M. スカリアーノ (カニングハム久子訳1994) 『我, 自閉症に生まれて』 学習研究社。
- テンブル・グランディン (カニングハム久子訳1997) 『自閉症の才能開発—自閉症と天才をつなぐ環—』 学習研究社。
- テンブル・グランディン, ショーン・パロン (門脇陽子訳2009) 『自閉症スペクトラム障害のある人が才能をいかすための人間関係10のルール』 明石書店。
- テンブル・グランディン (中尾ゆかり訳2010) 『自閉症感覚—かくれた能力を引き出す方法—』 日本放送出版協会。
- トーマス・A・マッキー (ニキ・リンコ訳2003) 『ほくとクマと自閉症の仲間たち』 花風社。
- 利田潤 (2011) 『僕はアスペルガー—ある広汎性発達障害者の手記—』 創風社出版。
- 上野康一・上野景子・上野健一 (2011) 『発達障害なんのその, それが僕の生きる道』 東京シュレー出版。
- 梅永雄二編 (2004) 『こんなサポートがあれば! LD, ADHD, アスペルガー症候群, 高機能自閉症の人たちの自身の声』 エンパワメント研究所。
- 梅永雄二編 (2007) 『こんなサポートがあれば! LD, ADHD, アスペルガー症候群, 高機能自閉症の人たちの自身の声2』 エンパワメント研究所。
- ウェンディ・ローソン (ニキ・リンコ訳2001) 『私の障害, 私の個性』 花風社。
- 山下揺介・田部絢子・石川衣紀・上好功・至田精一・高橋智 (2010) 発達障害の本人調査からみた発達障害者が有するスポーツの困難・ニーズ, 『東京学芸大学紀要総合教育科学系I』 第61集。

質問紙調査票

「身体の動きにくさ」の困難・ニーズに関する実態調査

東京学芸大学総合教育科学系
特別支援科学講座 高橋智研究室

この調査は、発達障害を有する本人・当事者の方々が「身体の動きにくさ」に関してどのような困難を感じているのかについてお聞きするものです。そしてそのような困難に対して、本人・当事者の方々がどのような理解・支援を求めているのかを明らかにすることを目的としています。

【確認事項】

- ①調査はいつでも中止できます。ご記入中にフラッシュバックや不快・不安を感じた場合は、調査をすぐに中止してください。
- ②プライバシーが侵害されることは一斉ありません。本調査票はすべて機械的・統計的に処理され、個人・団体が特定されることはありません。
- ③個人情報保護・データ管理には十分に配慮いたします。本調査では、「個人情報保護法」および「東京学芸大学研究倫理規程」を遵守いたします。
- ④調査の結果をご報告致します。本調査は、すべての調査・分析が修了した後に、ご協力いただいた各団体・個人に調査結果報告書という形で結果を報告させていただきます。
- ⑤調査を社会に広く還元していきます。本調査は、調査結果報告書や学会発表・論文として公表し、社会に還元していきます。

以上の①～⑤に同意いただける方は、次のページから始まる調査票にご記入をお願いします。

【ご回答者について】

- 1.年齢：() 歳
- 2.性別：男性 女性
- 3.所属：①在学中（高校、高等専門学校、専修大学、短期大学、大学、大学院、その他）
②有職者（職種： 雇用形態：正規雇用、パート・アルバイト）
③無職者 ④その他（ ）
- 4.医療機関等で正式に診断・判断を受けていらっしゃいますか。（有 ・ 無 ）
- 5.（4で「有」と回答された方のみお答えください。）
発達障害と診断・判定された機関：①医療・病院 ②児童相談所 ③教育委員会の教育センター・教育相談所
④その他（ ）
- 6.発達障害の診断・判定名（重複の場合は複数選択してください。）：
①アスペルガー症候群 ②高機能自閉症 ③その他の広汎性発達障害 ④学習障害（LD）
⑤注意欠陥多動性障害（ADHD） ⑥知的障害 ⑦その他（ ）
- 7.診断・判定を受けたときの年齢：() 歳
- 8.調査結果の報告を希望されますか。（はい ・ いいえ ）
「はい」とご回答された方はお名前、ご住所またはメールアドレスをご記入ください。

I. 「身体の動きにくさ」に関する困難のチェックリスト

- 1.あてはまる項目の□の部分にチェックを入れてください。（例：☑, □→■など）
- 2.チェックのついた項目の中で、その詳細がある場合には（具体的に： ）に可能な範囲でお書き下さい。（例：現在はそうではないが過去はそうであったことや、あてはまる項目について自分で工夫していることなど）
☆項目が大変多くなっていますので、ぜひ休憩をとりながらご自分のペースに合わせてお進めください。

【1. 頭部】

001. <input type="checkbox"/> 目を左右に動かす運動が苦手であり, 横書きの本を読むと車酔いのように気持ちが悪くなってしまう。 (具体的に:)
002. <input type="checkbox"/> 眼球の不器用があり, 目がうまく回らない。(具体的に:)
003. <input type="checkbox"/> 眼球が不器用で, 数行飛ばし読みをしてしまうことがよくある。(具体的に:)
004. <input type="checkbox"/> 唇が弱く, まるで麻痺しているようである。唇をどう使ったらいいのか分からない。(具体的に:)
005. <input type="checkbox"/> 口元が緩んでいるのをよく指摘される。(具体的に:)
006. <input type="checkbox"/> 表情が乏しく, よい表情を作れない。(具体的に:)
007. <input type="checkbox"/> にっこりした笑顔を作っているつもりなのに, 「しかめ面をしている」と言われる。(具体的に:)
008. <input type="checkbox"/> 内面の感情と表情は, 意識しなければ一致させることができない。(具体的に:)
009. <input type="checkbox"/> びっくりしたり, 緊張したり, 恥ずかしかったりしたときも, 固まるだけで感情を表に出すことができない。 (具体的に:)
010. <input type="checkbox"/> 極度に緊張するとニコニコ顔がやめられなくなる。(具体的に:)
011. <input type="checkbox"/> その他 ()

【2. 頸部】

012. <input type="checkbox"/> 首がよくつながっていない感じがする。(具体的に:)
013. <input type="checkbox"/> 首が前に傾いているといわれる。(具体的に:)
014. <input type="checkbox"/> 歩くときに首をつかまれているような感じがする。(具体的に:)
015. <input type="checkbox"/> その他 ()

【3. 腹部】

016. <input type="checkbox"/> 腹筋が弱く, 腹筋運動ができない。(具体的に:)
017. <input type="checkbox"/> 体幹の緊張不足で内臓下垂になり, 下腹がでている。(具体的に:)
018. <input type="checkbox"/> その他 ()

【4. 腰部】

019. <input type="checkbox"/> ひどい猫背である。(具体的に:)
020. <input type="checkbox"/> 腰のあたりが気持ち悪くて座ってられない。(具体的に:)
021. <input type="checkbox"/> まっすぐに座れず, すぐ椅子にもたれかかってしまう。(具体的に:)
022. <input type="checkbox"/> 体を支えて姿勢をたもつ筋力がない。(具体的に:)
023. <input type="checkbox"/> 低緊張であり, 座っていても, 尻を前にずらす浅掛けになり, 自然に上体が傾き, 脚が開いてしまう。 (具体的に:)
024. <input type="checkbox"/> 姿勢を保つために力を入れすぎ, 大変な労力を使っている。(具体的に:)
025. <input type="checkbox"/> 何かに熱中すると姿勢に注意が回らなくなり, 姿勢が崩れてしまう。(具体的に:)
026. <input type="checkbox"/> 姿勢が変化するのが怖い。(具体的に:)
027. <input type="checkbox"/> よく椅子から転げ落ちる。(具体的に:)
028. <input type="checkbox"/> 大声で笑うと腰が抜けたようにそのまま地べたに座りこんでしまう。(具体的に:)
029. <input type="checkbox"/> いつも腰痛である。(具体的に:)
030. <input type="checkbox"/> その他 ()

【5. 上肢】

031. <input type="checkbox"/> 精密さや細かさを要求される作業が苦手である。(具体的に：)
032. <input type="checkbox"/> 爪の長い動物の手のような感じ、あるいはグローブをはめているような感覚があり、細かな動作ができない。(具体的に：)
033. <input type="checkbox"/> 作業速度が遅く、図工や家庭科では期限までに作品を仕上げるのが一苦労だった。(具体的に：)
034. <input type="checkbox"/> 家事全般が全くできない。(具体的に：)
035. <input type="checkbox"/> 編み物や縫い物は全くできない。(具体的に：)
036. <input type="checkbox"/> ひも結びが苦手である。(具体的に：)
037. <input type="checkbox"/> ちょうちょ結びが縦結びになってしまう。(具体的に：)
038. <input type="checkbox"/> まっすぐな線がかけない。(具体的に：)
039. <input type="checkbox"/> 極端な癖字である。(具体的に：)
040. <input type="checkbox"/> 漢字の角、とめ、はね、はらいがうまくかけない。(具体的に：)
041. <input type="checkbox"/> 指先に集中して力を入れていないと鉛筆を持てないため、強い筆圧になりすぐ疲れてしまう。(具体的に：)
042. <input type="checkbox"/> 筆圧が弱く、ミミズが這うような字しか書けない。(具体的に：)
043. <input type="checkbox"/> 字を枠におさめることに非常に苦労する。(具体的に：)
044. <input type="checkbox"/> 字が斜め上がりになってしまったり、横まっすぐに書くことが難しい。(具体的に：)
045. <input type="checkbox"/> 体に力が入って疲れるので、字を書くのは苦手、漢字はできれば書きたくない。(具体的に：)
046. <input type="checkbox"/> 縦書きがすごく苦手である。(具体的に：)
047. <input type="checkbox"/> 塗り絵ができない。(具体的に：)
048. <input type="checkbox"/> 絵がまったく描けない。(具体的に：)
049. <input type="checkbox"/> 手の力加減が分からず、物を壊してしまうことがよくある。(具体的に：)
050. <input type="checkbox"/> 自分がどのくらい強いつかんでいるのか、理解するのが難しい。(具体的に：)
051. <input type="checkbox"/> 定規やコンパス、カッター、はさみなどの文房具がうまく使えない。(具体的に：)
052. <input type="checkbox"/> はさみでまっすぐ切ったり、線通りに切ることができない。(具体的に：)
053. <input type="checkbox"/> 定規でまっすぐ線にかくことができない。(具体的に：)
054. <input type="checkbox"/> コンパスは軸を支えていられなくて、円を描くことができない。(具体的に：)
055. <input type="checkbox"/> 鉛筆やお箸の持ち方がおかしいと指摘される。(具体的に：)
056. <input type="checkbox"/> ボタンがうまくとめられない。(具体的に：)
057. <input type="checkbox"/> 名札のバッジのつけはずしができない。(具体的に：)
058. <input type="checkbox"/> 靴下がなかなかはけない。(具体的に：)
059. <input type="checkbox"/> ピアノは習っていたのだが、いくら練習しても両手でピアノを弾くことができない。(具体的に：)
060. <input type="checkbox"/> 鍵盤ハーモニカやリコーダー等、楽器は全くといっていいほど弾けない。(具体的に：)
061. <input type="checkbox"/> 木琴や鍵盤などは、指がこわばってうまく動かないから、弾くことはできない。(具体的に：)
062. <input type="checkbox"/> かみそりが苦手、うまく使えずに出血してしまうことがよくある。(具体的に：)
063. <input type="checkbox"/> 握力が低い。(具体的に：)
064. <input type="checkbox"/> 腕の筋力が弱く、重い荷物が持てない。(具体的に：)
065. <input type="checkbox"/> うんていは、ぶら下がることはできるが、前に進むことができない。(具体的に：)
066. <input type="checkbox"/> 腕の感覚はつかみにくい。(具体的に：)
067. <input type="checkbox"/> 手指の感覚が鈍い。(具体的に：)
068. <input type="checkbox"/> どうやってボールを投げればいいのか分からない。(具体的に：)
069. <input type="checkbox"/> 肩、ひじ、手首などがゆるくて指先に力が入りにくい。(具体的に：)
070. <input type="checkbox"/> 手首をだらりとさせている。(具体的に：)
071. <input type="checkbox"/> 常にひどい肩こりがある。(具体的に：)
072. <input type="checkbox"/> 極端ななで肩である。(具体的に：)
073. <input type="checkbox"/> その他 ()

【6. 下肢】

074. <input type="checkbox"/> 歩くときは足を部分ごとに意識している。(具体的に:)
075. <input type="checkbox"/> 足を踏み出すときは, 右, 左, 右, 左と意識しなければならない。(具体的に:)
076. <input type="checkbox"/> 歩くときは, 足の裏全体をつけて, 引きずるように歩いている。(具体的に:)
077. <input type="checkbox"/> 歩いている途中に足に力が入らなくなり, ぎこちなくしか歩けない。(具体的に:)
078. <input type="checkbox"/> 歩いていると, 足の裏が痛くなる。(具体的に:)
079. <input type="checkbox"/> 足がないまま, 歩いているように感じる。(具体的に:)
080. <input type="checkbox"/> 歩行時にふらつく。(具体的に:)
081. <input type="checkbox"/> 歩くスピードがとても遅い。(具体的に:)
082. <input type="checkbox"/> 余計な力がたくさん入り, 自然に歩けない。(具体的に:)
083. <input type="checkbox"/> 体をまっすぐにして歩くことができない。(具体的に:)
084. <input type="checkbox"/> 歩くとき, 一方の足は誰かの歩き方を真似している。もう一方は別の歩き方で進んでいこうとする。おかげで, ふたりの人間が半分ずつ合体したようなちぐはぐな動きしかできなくなって, 足をもつれさせてしまう。(具体的に:)
085. <input type="checkbox"/> 疲れたり強い刺激を受けると, 歩き方が分からなくなってしまう。(具体的に:)
086. <input type="checkbox"/> 足元が不安定で, 歩いているとすぐ転ぶ。(具体的に:)
087. <input type="checkbox"/> 何もないところでさえ, 自分の左足に自分の右足を引っ掛けて転んでしまう。(具体的に:)
088. <input type="checkbox"/> 道の何もないところでつまずいて転んでしまう。(具体的に:)
089. <input type="checkbox"/> まっすぐ走れないし, すぐ転ぶ。(具体的に:)
090. <input type="checkbox"/> 膝をあまり曲げずに歩いたり走ったりするため, 足が地面に引っかかりよく転ぶ。(具体的に:)
091. <input type="checkbox"/> 走っているとき, 自分では足を大きく上げて動かしているつもりなのに, 「全然動いていない」といわれる。(具体的に:)
092. <input type="checkbox"/> 走るときはちゃんと「ひざを上げてつま先で蹴っている」のにぜんぜん前進しない。(具体的に:)
093. <input type="checkbox"/> 走るといつも胸が苦しくなり, すぐにでも四つん這いになりたくなる。(具体的に:)
094. <input type="checkbox"/> 走っていると体がばらばらになるみたいにバランスを崩して転んでしまう。(具体的に:)
095. <input type="checkbox"/> 走ると足の裏が痛くなる。(具体的に:)
096. <input type="checkbox"/> トランポリンの上など, 足元が不安定な場所にいると気持ち悪くなる。(具体的に:)
097. <input type="checkbox"/> プールに足をふみいれると, 足が不安定に感じてバランスを崩す感覚になり, 正しく歩くことが不可能になる。(具体的に:)
098. <input type="checkbox"/> 反復横跳びをすると, 跳ねるたびにめまいがし, まるで大地がうねっているように感じられる。(具体的に:)
099. <input type="checkbox"/> 階段の昇り降りが不安定で, 転げ落ちそうになる。(具体的に:)
100. <input type="checkbox"/> 荷物を抱えて階段を昇ることはとても難しく, 一段ずつ慎重に昇らなければならない。(具体的に:)
101. <input type="checkbox"/> 目をつぶっての片足立ちができない。(具体的に:)
102. <input type="checkbox"/> 下半身は一時停止が苦手である。(具体的に:)
103. <input type="checkbox"/> サッカーで, 蹴る足と蹴らない足をどうやって動かすのかわからない。(具体的に:)
104. <input type="checkbox"/> 足をあげると腰まで一緒に跳ね上がり, 一歩踏み出すたびに腰全体がまわってしまう。(具体的に:)
105. <input type="checkbox"/> スキップができない。(具体的に:)
106. <input type="checkbox"/> 疲れると足腰が立たなくなってしまう。(具体的に:)
107. <input type="checkbox"/> ずっと立ったままでいると脚の感覚がよく分からなくなる。(具体的に:)
108. <input type="checkbox"/> 水の中で引きずっているみたいに足が重い。(具体的に:)
109. <input type="checkbox"/> 疲れると足首が固まらなくなる。(具体的に:)
110. <input type="checkbox"/> 足首や股関節がとても固い。(具体的に:)
111. <input type="checkbox"/> ひどく内股である。(具体的に:)
112. <input type="checkbox"/> ひどいX脚である。(具体的に:)
113. <input type="checkbox"/> その他 ()

【7. 体全体】

114. <input type="checkbox"/> どこからどこまでが自分の身体なのかつかみにくい。(具体的に：)
115. <input type="checkbox"/> 自分の身体の各部位がどうつながっているのかを知覚できていない。(具体的に：)
116. <input type="checkbox"/> 視界に入っていない体(背中など)は把握しにくい。(具体的に：)
117. <input type="checkbox"/> 自分が着ぐるみに入っているような気持ちになることがある。(具体的に：)
118. <input type="checkbox"/> まるで魂以外は別の人間の体のように、自分の思い通りにはならない。(具体的に：)
119. <input type="checkbox"/> 自分の体を自分のものだとして自覚したことがない。(具体的に：)
120. <input type="checkbox"/> 気分が悪いときはボディイメージが弱くなったり、身体が外れる感覚がある。(具体的に：)
121. <input type="checkbox"/> 足や手に怪我をすると、はじめて足や手が自分の一部だと感じることができる。(具体的に：)
122. <input type="checkbox"/> 身体図式が不明確で、自分の体が分からないため、自分が透明人間であるような感覚がある。 (具体的に：)
123. <input type="checkbox"/> 跳びはねると、手足の位置がわかることによって、自分の存在が実感できる。(具体的に：)
124. <input type="checkbox"/> 自分の身体と周りのものとの距離を自動的にはかれない。(具体的に：)
125. <input type="checkbox"/> ダンスや体操で、先生の動きを真似するのがとても難しい。(具体的に：)
126. <input type="checkbox"/> ダンスは、振り付けの覚えが悪く動作がぎこちないので、とても苦手である。(具体的に：)
127. <input type="checkbox"/> 自分では「できたつもり」でも、他人から見ると本当の動きと違う場合が多い。(具体的に：)
128. <input type="checkbox"/> 手と足など、二つ以上の部分を一緒に動かすとすると、ちぐはぐになってしまう。(具体的に：)
129. <input type="checkbox"/> 手と足でバラバラな動きができない。(具体的に：)
130. <input type="checkbox"/> 手と足を同時に動かそうとすると、こわばって固まってしまう。(具体的に：)
131. <input type="checkbox"/> リズミカルな動きを人や音楽と合わせることは至難の技である。(具体的に：)
132. <input type="checkbox"/> ある方向には動けるのに、向きを変えると体が動きを「覚えていない」ことがある。(具体的に：)
133. <input type="checkbox"/> 誰かの動きを真似しながら動こうとすれば動けるのだが、自分の頭を使って動こうとすると、とたんに動けなくなってしまう。(具体的に：)
134. <input type="checkbox"/> 行進をすると、自分だけ違う動きをしてしまう。(具体的に：)
135. <input type="checkbox"/> 自分が指示されたり参加したりするときに、何を言われても言葉が動作につながらない。言葉の内容が理解できているときでも、体をどう動かしたらいいのか分からない。(具体的に：)
136. <input type="checkbox"/> 身体を動かして何かしようと思ったら、完全にそのことに集中して、すべて意識でコントロールしていかなければならない。(具体的に：)
137. <input type="checkbox"/> 自分の動きを前もって考えることはできないし、他人の動きも理解できない。(具体的に：)
138. <input type="checkbox"/> 無意識に体が揺れている。(具体的に：)
139. <input type="checkbox"/> バランス感覚が悪く、普通に立っていることができない。(具体的に：)
140. <input type="checkbox"/> 朝はバランス感覚がうまく保てない。(具体的に：)
141. <input type="checkbox"/> 時々重力に負けるような感じがしてバランスを崩し、自分の体が支えられなくなる。(具体的に：)
142. <input type="checkbox"/> 四つん這いの姿勢から、頭を下げるだけで、めまいに襲われる。(具体的に：)
143. <input type="checkbox"/> 自転車に乗れない。(具体的に：)
144. <input type="checkbox"/> 自分の身体の動きを調節することができない。(具体的に：)
145. <input type="checkbox"/> 身体の動きがとてもぎこちない。(具体的に：)
146. <input type="checkbox"/> 全身がちがちに凝っている。(具体的に：)
147. <input type="checkbox"/> 体がとても硬く、柔軟運動が苦手である。(具体的に：)
148. <input type="checkbox"/> 全身に錘がぶらさがっているように感じる。(具体的に：)
149. <input type="checkbox"/> 筋肉の緊張が低く、関節が緩くて、身体を動かそうとすると関節ごと引っ張られてしまう。 (具体的に：)
150. <input type="checkbox"/> とても筋肉痛になりやすい。(具体的に：)
151. <input type="checkbox"/> 筋肉痛になると、まったく体を動かすことができないほど節々が痛む。(具体的に：)
152. <input type="checkbox"/> 体中のいたるところが常に痛い。(具体的に：)

153. <input type="checkbox"/> 筋肉が緩んだりしたら全身バラバラになる。(具体的に:)
154. <input type="checkbox"/> 筋力のオンオフの調整ができず, ガチガチに動くか, フニャフニャになるかの, どちらかである。 (具体的に:)
155. <input type="checkbox"/> 身体の動きを急に止めることが難しい。(具体的に:)
156. <input type="checkbox"/> 風邪をひくと, 身体がバラバラに裂けるような感覚がある。(具体的に:)
157. <input type="checkbox"/> 反復の運動的動作を行うことがとても難しい。(具体的に:)
158. <input type="checkbox"/> ジャンプのやり方が分からない。(具体的に:)
159. <input type="checkbox"/> 水泳は, 沈みかけながら前に進むのがやっつである。(具体的に:)
160. <input type="checkbox"/> 水泳は, 浮き方さえ分からない。(具体的に:)
161. <input type="checkbox"/> 水泳は息継ぎをしたら沈んでしまう。(具体的に:)
162. <input type="checkbox"/> プールに入ると, 自分の身体が, 空気中にある部分と水中にある部分とに分割されたように感じる。 (具体的に:)
163. <input type="checkbox"/> 緊張をすると体の感覚が押しつぶされ, 腕も足も石のように硬くなってしまう。(具体的に:)
164. <input type="checkbox"/> ほめられて嬉しかったり感情が盛り上がると, 身体の力が抜けて脱力してしまう。(具体的に:)
165. <input type="checkbox"/> 運動中は他の人に比べてひどく疲れやすい。(具体的に:)
166. <input type="checkbox"/> その他 ()

【8. その他】

167. <input type="checkbox"/> 左右の手足をバランスよく動かせない。(具体的に:)
168. <input type="checkbox"/> 右と左を交互に動かす「クロスパターン」の動作がとても苦手。右か左, 前か後ろを別々に動かすことなら できるが, 両方一緒となると不ぞろいででたらめな動きになる。(具体的に:)
169. <input type="checkbox"/> 右と左で違う運動ができない。(具体的に:)
170. <input type="checkbox"/> 左右対称の動き方ができない。(具体的に:)
171. <input type="checkbox"/> 右と左がよく分からない。急に言われると混乱する。(具体的に:)
172. <input type="checkbox"/> まわれ右, 左ができない。(具体的に:)
173. <input type="checkbox"/> 右利きか左利きかが判然としない。(具体的に:)
174. <input type="checkbox"/> 利き手の右手より左手の方が使いやすいときがある。(具体的に:)
175. <input type="checkbox"/> 左手でしか荷物を持って歩けない。(具体的に:)
176. <input type="checkbox"/> 左右の動作の差が異常に大きく, 靴下は右足から始めないと, スムーズに履くことができない。 (具体的に:)
177. <input type="checkbox"/> 前から投げられているボールが, 後ろから来ているように感じられるなど, 前後の混乱がある。 (具体的に:)
178. <input type="checkbox"/> 運動機能は日によって大きな差が出る。(具体的に:)
179. <input type="checkbox"/> ピタッとした服を着るとますます動けなくなってしまう。(具体的に:)
180. <input type="checkbox"/> その他 ()

Ⅱ. 「身体の動きにくさ」の支援ニーズに関するチェックリスト

001. <input type="checkbox"/> 何をすることになるか分かっていて, 動きの範囲が限られていると, 身体をどのように動かそうか選ぶとき の強い緊張をずいぶん減らすことができる。(具体的に:)
002. <input type="checkbox"/> 動きは, いったん手順を覚えてしまえば,あとは流れで続けていける。体育の授業もパターン化してほしい。 (具体的に:)
003. <input type="checkbox"/> 動きについての具体的なイメージ, 図や映像を見せてほしい。(具体的に:)
004. <input type="checkbox"/> 一連の動作を初心者向けに分解して1, 2, 3・・・などと教えられると, うまくできない。特に体の動作 が関連することでは, 連続した流れで教えてもらうほうが, 分解されるよりもつかみやすい。

(具体的に：)
005. <input type="checkbox"/> 音に合わせてだと動けることがあるので、音を流してほしい。(具体的に：)
006. <input type="checkbox"/> 自分の手をつかんでどう動かすのかをみせてくれると、動きを早く学ぶことができるので、そうしてほしい。	
(具体的に：)
007. <input type="checkbox"/> 動きがおかしいときは、何がどうおかしいのか、細かく教えてほしい。(具体的に：)
008. <input type="checkbox"/> すぐには体を動かさなくても、教えることをあきらめないでほしい。(具体的に：)
009. <input type="checkbox"/> 運動機能は日によって大きな差が生じる。「昨日はできたのに今日はできない」ということがあるということ を理解してほしい。(具体的に：)
010. <input type="checkbox"/> 体育の授業は進度別クラスにしてほしい。(具体的に：)
011. <input type="checkbox"/> 鉛筆やお箸の持ち方のサポートグッズを使うのを認めてほしい。(具体的に：)
012. <input type="checkbox"/> 方向感覚に問題を抱えているので、体育の授業で使う靴に「右」「左」と書くことを認めてほしい。 (具体的に：)
013. <input type="checkbox"/> 鏡は身体感覚を補ってくれる。鏡に映っているのを見ると、自分の手足や頭、胴体がどこにあるのか、うま く感じ取ることができる。(具体的に：)
014. <input type="checkbox"/> 罫線がないと字をまっすぐ書くことができないので、罫線入りの紙を渡してほしい。(具体的に：)
015. <input type="checkbox"/> 自筆で文字を書くことがとても嫌なので、パソコンを使うことを認めてほしい。(具体的に：)
016. <input type="checkbox"/> その他 ()

ご協力，まことにありがとうございました。

発達障害と「身体の動きにくさ」の困難・ニーズ

—— 発達障害の本人調査から ——

Study on the Difficulties and Support Needs of the Physical Movements from View Point of Survey of Person with Developmental Disabilities

高橋智*・井戸綾香**・田部絢子***・石川衣紀****・内藤千尋*****

Satoru TAKAHASHI, Ayaka IDO, Ayako TABE, Izumi ISHIKAWA and Chihiro NAITOH

特別支援科学講座

Abstract

In this study, we have examined the difficulties and support needs of physical movements in children and adolescents with developmental disabilities from view point of survey of person with developmental disabilities.

Method of the study was carried out to create a “checklist of physical movements difficulties” survey questionnaire. Period of survey was from November 2012 to January 2013, responses were received from 133 peoples with developmental disabilities.

Items related to the movement of the finger clumsiness were noticeable. It was also noticeable on the difficulties of the items in addition to the eye movement. If there is difficulties in eye movement, to capture the movement of the ball is difficult, it will contribute to the poor of the ball game. Such as “can not be the movement of symmetry” “weak behavior of the cross pattern to move alternately right and left” “not to move in a balanced manner limbs left and right”, items related to difficulties of left-to-right relationship became higher across the board.

Key words: Developmental Disabilities, Physical Movements, Sensory Integration Disorder

Department of Special Needs Education, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要旨: 本研究では発達障害の本人の方を対象に、彼らがどのような「身体の動きにくさ」に関する困難・ニーズを抱えているのかについて調査し、求めている支援の課題について明らかにした。調査の方法は、刊行されている発達障害本人の手記をもとに質問紙調査票「『身体の動きにくさ』に関するチェックリスト」を作成して実施した。調査の期間は2012年11月～2013年1月、発達障害の診断・判定を有する本人133名から回答を得た。

* Ph.D., Professor of Department of Special Needs Education, School of Education, National University Corporation Tokyo Gakugei University
** Niigata Reformatory School
*** Ph.D., Lecturer, Osaka University of Health and Sport Sciences
**** Ph.D., Associate Professor, School of Education, National University Corporation Nagasaki University
***** Research Associate, National University Corporation Tokyo Gakugei University

χ^2 値比較とオッズ比比較により高い数値を示した項目を見ると、手指の運動の不器用さに関する項目が目立っていた。そのほかに眼球運動の困難に関する項目も目立っている。また「左右の手足をバランスよく動かさない」「右と左を交互に動かす『クロスパターン』の動作がとても苦手」「左右対称の動き方ができない」など、左右関係の困難に関する項目が軒並み上位となった。両手や両足など体の左右両側にある部分をチームワークのように協力させて動かすことが難しい両側協応の問題をもつ人は、両手両足を同時に動かすことができない、利き手が定まらない、左右の混乱があるなど、左右関係で様々な困難を抱えている。他にも、発達障害に特有の感覚統合障害に起因すると考えられるものが、高い困難度を示していた。

キーワード: 発達障害, 身体の動き, 感覚統合障害